

基礎看護学

専門分野

授業科目	看護学へようこそ	講師	氏名	前田 寛美	開講年次	単位・時間	
			所属	専任教員	1年次 前期	1単位 30時間	
			実務経験	臨床看護師			
科目の ねらい	『看護学へようこそ』は、全ての看護学の入り口である。つまり、「看護とは何か」「看護師は何をする人なのか」を考え探求し、看護の位置付け、専門性を理解するとともに、これから学ぶ専門看護学への礎になることを認識する。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護の概念の変遷を説明できる。</li> <li>看護技術を学ぶことの意義と重要性を理解し、看護における「安全・安楽・自立」について説明できる。</li> <li>健康の概念の変化を捉え、WHOが提示する健康方策について説明できる。</li> <li>環境と人間の関係について説明できる。</li> <li>看護の対象としての「人間」を理解し説明できる。</li> <li>看護の機能と役割から、看護の専門性を説明できる。</li> <li>看護職における法的規制と制度を理解し、看護実践における責務を説明できる。</li> </ol>						
思考 判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護が時代と共に発展してきた過程を通して、これから看護師に求められることについて考察し言語化することができる。</li> <li>看護の概念枠組み（人間・環境・健康・看護）の理解が看護実践に大きく影響することを説明できる。</li> <li>今なぜ、SDGsが叫ばれているのか、WHOが提示する健康方策から考察できる。</li> </ol>						
主体的学習 態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>シラバスを活用し、積極的な検索行動がとれる。</li> <li>検索した情報を熟読し、再構成できる。</li> <li>主体的に学習したものをポートフォリオに蓄積させ、講義終了後に蓄積された成果物をさらに凝集させ、オリジナルなものにまとめ提出できる。</li> </ol>						
科目評価	随時試験	①ポートフォリオの提出 ②課題レポートの提出 ③小テスト ④まとめテスト	◎ ★ ※-1~3 ※-4	25% 25% 30% 20%	合計100%		
テキスト	看護学概論 基礎看護学1	(医学書院)					
参考文献	看護学書き 本当の看護とそうでない看護 (日本看護協会出版社) 看護の基本となるもの (日本看護協会出版社) 系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度4 (医学書院) ロイ適応看護理論の理解と実践 (医学書院) 新体系 基礎分野 心理学 (メヂカルフレンド) 系統看護学講座 専門分野 看護管理 看護の統合と実践1 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践3 (医学書院) 私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法 (日本看護協会出版社)						
回次	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	プロローグ ようこそ！看護の世界へ 今看護師に求められていること	○			前田 寛美	心理学 発達心理学 医療現場のコミュニケーション 健康教育 公衆衛生 看護理論の基礎 看護過程 医療安全 国際看護 看護マネジメント	★1 課題レポート（提出） 医学書院 看護学概論 序章「看護を学ぶにあたって」を読み、自分が考える看護と比較し、今後どう思うこと ☆1 事前検索 「2003年新たな看護の在り方に関する後継報告書」
2	1. 技術概念から見た看護 2. 看護技術の原則：安全・安楽・自立	○				☆2 事前検索 用語の意味を調べておく 1) ADL, IADL 2) アドボカシー、アドボケイト	
3	看護の概念の変遷 1) ナイテングール以前の看護 2) ナイテングールの功績 3) ナイテングール以降の看護の発展	○				☆3 事前検索 1) ナイテングールの功績 2) ジュネーブ条約と国際赤十字 3) プラウンレポート 4) (WHO) 看護にあたる者の任務について	
4	日本の看護の変遷 1) 明治以前の概要 2) 明治以降の看護職の成立と制度 (1) 保健師助産師看護師法 (2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 (3) 看護職の資格と制度 3) 看護職者のキャリア開発	○				☆4 事前に概要を調べ要点をまとめておくこと。 飛鳥時代～江戸時代までの医療・看護の変遷 日本と欧米の比較	
5	(1) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 (3) 看護職の資格と制度	○				☆5 事前に概要を調べ要点をまとめておくこと。 1) 保健師助産師看護師法 2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律	
6	3) 看護職者のキャリア開発 (1) 看護職の専門分化 認定看護師、専門看護師	○				※-1 小テスト（範囲）「日本の看護の変遷」 2)、3)	
7	1. 看護の概念枠組み 人間・環境・健康・看護 2. 環境 1) 環境の概念 2) 環境と人間の関係	○					
8	健康 1) 健康の多様な特徴と健康の定義 2) 健康現象の捉え方 (1) 5つの予防 (2) 健康の判断 (3) 統計から見える健康 (4) 健康寿命	○					☆6 事前に検索し概要をまとめておく 1) 世界人権宣言、社会権規約、国際人権規約 2) WHO 3) 日本国憲法第25条 4) 健康日本21
9	(2) 健康の判断 (3) 統計から見える健康 (4) 健康寿命	○					☆2 課題レポート（提出） (テーマは、講義終了後に指示によりお知らせします。) ※-2 小テスト（範囲）「健康」1)～4)
10	3) WHOの健康方策 PHCとHPの概念とSDGsの関係 4) 日本における健康方策：健康日本21	○					☆7 事前検索 1) エリクソン、ハヴィーガースト、レビンソンの発達理論について調べる 2) 「防衛機制」について調べる 3) ロイ適応看護理論の理解と実践 (医学書院) のP24 (役割機能様式の概要)、P107～P108 (個人の役割機能様式) を読み、要約しておく ※-3 小テスト（範囲）「看護の対象」 1)～4)
11	看護の対象 1) 身体的側面から見た「人間」 (1) ホメオスタシス (2) 成長発達の特徴 (順序性・連続性・臨界期) 2) 心理的側面から見た「人間」 (1) マズローの欲求階層 (2) ストレスとコーピング (3) 危機理論 フィンク、ションツ、コーン、岩坪 キューブラー・ロス	○					
12	3) 社会的側面から見た「人間」 役割理論 4) 健康障害に伴う患者心理の特徴	○					
13	看護 1) 看護の目的 2) 看護の方法：看護過程 3) 看護の4つの機能	○					
14		○					
15	まとめ	○					◎講義終了後ポートフォリオを提出(提出日は指示) ①★1～7に対する受講後の学習追加状況 ②小テストの見直し ③その他主体的に学習を深めるために利用した資料など ※-4 まとめテスト
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						

基礎看護学

専門分野

授業科目	看護理論の基礎	講師	氏名	前田 寛美	開講年次	1年次 前期	単位・時間	1単位 15時間
			所属	専任教員				
			実務経歴	臨床看護師				
科目のねらい	看護理論は、看護を实践するうえで重要な意味を持ち、実践の中に存在するものである。この科目では、まず看護理論の必要性と代表的な複数の看護理論の概要について学習する。そして、さらに詳しく学ぶために、1つの看護理論を取り上げる。ここでは、ロイ適応理論を挙げ、「適応システムとしての人間」について理解を深める。							
到達目標								
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護理論の必要性について説明できる。</li> <li>2. 代表的な看護理論家を複数取り上げ、その特徴的な看護理論について、人間・健康・環境・看護を視点にまとめることができる。</li> <li>3. ロイ適応看護理論の概要を説明できる。</li> </ol>							
思考 判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護理論を基盤に実践する看護と理論的基盤を持たず実践する看護を比較し、看護理論の果たす役割を説明できる。</li> <li>2. 各看護理論を比較検討し、特徴の違いが看護実践に与える影響を考察できる。</li> <li>3. ロイ適応看護理論を基に、3つの刺激を捉えることは、予測した看護につながることを説明できる。</li> </ol>							
主体的学習 態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 興味を持つ看護理論家の文献を抄読する。</li> <li>2. 講義で提示された課題について、グループメンバーと積極的に意見交換ができる。</li> <li>3. 自らの解釈と他者の解釈を比較検討し、受容していくことができる。</li> </ol>							
科目評価	プレゼンテーションのグループ評価	20%	随時課題の提出状況	20%	最終課題レポート	60%	合計	100%
テキスト	ロイ適応看護理論の理解と実践 第2版 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 看護学概論 基礎看護学1 (医学書院)							
参考文献	ザ・ロイ適応看護モデル (医学書院) はじめての看護理論 (日経研) ロイ適応看護論入門 (医学書院) 看護理論 理論と実践のリンケージ (ヌーベル ヒロカワ) ケースを通してやさしく学ぶ看護理論 (日経研)							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	看護理論の概要 1. 看護理論が必要な理由 2. 理論の範囲 3. 看護学のメタパラダイム (概念的枠組み) 4. 看護理論の発展	○			前田 寛美	各専門看護学	看護理論のプレゼンテーション 1) 代表的な看護理論家を提示 2) グループを編成し、グループ毎に理論家1名を選定 3) グループワークを計画的に行いプレゼンの準備をする 4) 詳細は講義の中で説明する。	
2	ロイ適応看護理論へようこそ 1. 適応システムと人間	○					テキスト 「ロイ適応看護理論の理解と実践 第2版」 第2章の該当ページを毎回熟読して講義に臨むこと	
3	2. 刺激と行動、適応レベル	○					発表会については、配布される要領に沿って実施。	
4	代表的理論家の看護理論を プレゼンしよう	○						
5	3. 適応を促す看護 4. 対処プロセスと1つの適応様式 5. 適応システムと看護	○					テキスト 「ロイ適応看護理論の理解と実践 第2版」 第2章の該当ページを毎回熟読して講義に臨むこと  ※最終講義において、最終課題レポートの説明をする。	
6		○						
7		○						
8		○						
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。							

基礎看護学

専門分野

授業科目	看護倫理	講師	氏名	前田 寛美	開講年次	単位・時間																																			
			所属	専任教員																																					
			実務経験	臨床看護師	1年次 前～後期	1単位 30時間																																			
科目のねらい	職業倫理としての「看護倫理」、そして「生命倫理」の観点から、看護職者の自律性と対象の権利擁護、看護実践における法的な責任と倫理的責務について考えてみる。そして、専門職に求められる倫理について、看護師としてあるべき姿勢について、常に自問していくことを期待したい。																																								
到達目標																																									
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法的責任と倫理的責務の関係について説明できる。</li> <li>2. 患者の権利とインフォームドコンセントについて、その基本的知識と関係性（歴史的変遷）について説明できる。</li> <li>3. プライバシーと守秘義務について説明できる。</li> <li>4. 倫理原則と価値、そして倫理的ジレンマの関係について説明できる。</li> <li>5. 患者の意思決定支援としての事前指示書について説明できる。</li> <li>6. 現代医療における倫理的側面を持つ事例を調べ、倫理的課題を示すことが出来る。</li> </ol>																																								
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インフォームドコンセントの注意すべき側面を指摘できる。</li> <li>2. 事例を通して、倫理的ジレンマと「患者にとって良いこと」の討議ができる。</li> <li>3. 日本看護協会「看護職の倫理綱領」を使って、事例を検証できる。</li> <li>4. 生命倫理に関するテーマに対し、自らの主張をレポートによる討議で発表できる。</li> <li>5. 医療の発展と生命倫理の抱える課題について検討できる。</li> <li>6. 「生」「死」をテーマにした様々なジャンルの書物・映像に積極的に触れ、自らの価値観を看護職の立場で問いただす。</li> </ol>																																								
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他者の意見を傾聴できる。</li> <li>2. 自分と異なる価値観、考えに触れ、自分の考えと比較し取り入れる姿勢を示すことができる。</li> <li>3. グループワークを通して、自ら積極的に協働する姿勢を示すことができる。</li> <li>4. 自らの行動を「倫理原則」「看護職の倫理綱領」に照らし内省し、看護師としてあるべき姿勢を示すことができる。</li> <li>5. 「生」「死」をテーマにした様々なジャンルの書物・映像から、興味を持ったものをクラスメートに紹介できる。</li> <li>7. 主体的に学習したものをポートフォリオに蓄積させ、講義終了後に蓄積された成果物をさらに精査させ、オリジナルなものにまとめ提出できる。</li> </ol>																																								
科目評価	<table border="0"> <tr> <td>①ポートフォリオの提出</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②グループワーク参加（出席）状況</td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③小テスト</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④課題レポート</td> <td>40%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="5" style="text-align: right;">合計100%</td> </tr> </table>						①ポートフォリオの提出	20%						②グループワーク参加（出席）状況	30%						③小テスト	10%						④課題レポート	40%								合計100%				
①ポートフォリオの提出	20%																																								
②グループワーク参加（出席）状況	30%																																								
③小テスト	10%																																								
④課題レポート	40%																																								
		合計100%																																							
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護学概論 基礎看護学1 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 看護倫理 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 看護管理 看護の統合と実践1 (医学書院)																																								
参考文献	看護のための生命倫理 改定三版 (ナカニシヤ出版) 看護が直面する11のモラル・ジレンマ (ナカニシヤ出版) 看護倫理 見ているものが違うからおこること (医学書院) 看護倫理学入門 文学作品を通して感性と問題解決能力を高める (医歯薬出版株式会社) 美しいままで オランダで安楽死を選んだ日本女性の「心の日記」 (祥伝社)																																								
回数	教育内容	教育方法		講師	関連科目	留意事項																																			
		講義	演習その他																																						
1	1. なぜ、看護倫理を学ぶのか 2. 法的責任と倫理的責務	○		前田 寛美	倫理学 看護学へようこそ 各専門看護学	授業全体についてや課題、文献検索の資料、グループ活動の中で学習した資料、その他主体的に学習を行った成果物をポートフォリオとして整理していくこと ☆1 課題 倫理学の復習をしておく（要点を整理しておく）																																			
2	3. プライバシーと守秘義務	○				☆2 課題 患者の権利に関する、国際的な宣言や条約を調べる。																																			
3	4. 患者の権利とインフォームドコンセント 1) 歴史的変遷 2) インフォームドコンセントの要件 3) インフォームドコンセントの課題	○				※小テスト 「患者の権利とインフォームドコンセント」1～3																																			
4		○																																							
5		○																																							
6	5. 倫理的ジレンマと倫理的意思決定 (倫理判断) 1) 倫理原則と「看護職の倫理綱領」 2) 価値について 3) 事例検討	○				☆3 課題 事例検討に関する事項（講義内で提示）																																			
7		○																																							
8		○																																							
9		○																																							
10		○																																							
11	6. 生命倫理 1) 生命倫理とは 2) 現代医療におけるさまざまな倫理的課題を考える。 例) 安楽死、脳死、臓器移植、等	○				生命倫理に関するテーマを取り扱う。 課題レポート・・・講義の中で随時提示。 ◎講義終了後ポートフォリオを提出(提出日時は指示) ◎☆1～3課題に対する受講後の学習追加状況 ◎小テストの見直し ◎その他主体的に学習を深めるために利用した資料など																																			
12		○																																							
13		○																																							
14		○																																							
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。																																								



基礎看護学

専門分野

授業科目	療養生活援助技術 II	講師	氏名	①兼本恵美 ②桑原麻衣	開講年次	単位・時間		
			所属	①②専任教員				
			実務経験	①②臨床看護師				
科目の ねらい	私たちの生命を維持するための「食べること」「排泄すること」「清潔にすること」は、すべての人に欠かせない生活行動であり、これらの生活行動の意義を考え、適切な維持ができなくなった人への援助方法について学習する。からだの構造、からだの機能、日常生活でみるからだで修得した知識を基に、療養生活援助技術Ⅰで修得した技術を活用し、対象の生理的欲求を満たす援助技術を修得する。							
到達目標								
知識・ 技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食事摂取の意義、嚥下のメカニズムを説明できる。</li> <li>2. 食事摂取に援助が必要な対象に対し、科学的根拠に基づく安全を踏まえた食事介助ができる。</li> <li>3. 排泄のメカニズムを説明できる。</li> <li>4. 排泄動作に援助が必要な対象に対し、科学的根拠に基づく安全を踏まえた排泄援助ができる。</li> <li>5. 清潔・入浴の意義、皮膚のメカニズムを説明できる。</li> <li>6. 清潔動作に援助が必要な対象に対し、科学的根拠に基づく安全を踏まえた清潔援助ができる。</li> </ol>							
思考・ 判断・ 表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食事援助される対象の心情を考えながら、状況に応じ安全・安楽・自立に基づく援助が検討・提示できる。</li> <li>2. 排泄援助される対象の羞恥心や心情を考えながら、状況に応じ安全・安楽・自立に基づく援助が検討・提示できる。</li> <li>3. 清潔援助される対象の羞恥心や心情を考えながら、状況に応じ安全・安楽・自立に基づく援助が検討・提示できる。</li> <li>4. 想定された対象に対し、健康が障害された範囲、活動可能な範囲を考慮した援助を検討・提示できる。</li> <li>5. ディスカッションから、創意工夫された援助技術の科学的根拠が明確にできる。</li> </ol>							
主体的学 習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習前後に自己練習ができる。</li> <li>2. ユビタンスをもって、援助技術を計画、実践、評価できる。</li> <li>3. 常に技術修得に向けたアプローチとして、ピアサポート、チューター制を活用した行動ができる。</li> </ol>							
科目評価	①定期試験（実技）100% ②定期試験（筆記）80%、小テスト①～④20% 合計100% ①②ともに合格した者を単位取得とする。							
テキスト	系統別看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 系統別看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護学Ⅱ（医学書院）							
参考文献	看護技術プラクティス (Gakken) 看護がみえる①基礎看護技術 (メディックメディア) 写真でわかる基礎看護技術アドバンス (インターメディカ) 看護技術ベシックス第2版 (サイオ出版)							
留意事項	演習に臨むときの留意事項 ①事前に動画を視聴し、自己練習を複数回しておくこと ②自己練習では、動画視聴とは別にピアサポート、チューター制を活用すること ③事前に配布される評価表を使って、手順の根拠を調べ学習し、ファイリングしておくこと							
回数	教育内容	教育方法				講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	到達 レベル	その他			
1	1. 食事援助と口腔ケア 1) 食事の意義 2) 食欲に影響を及ぼす因子 3) 摂食・嚥下のアセスメント 4) 口腔ケアの留意点	○		I		兼本 恵美	からだの構造 からだの機能 日常生活から見るからだ 各専門看護学	☆小テスト①嚥下のメカニズム ②消化吸収過程 ★事前に送信・提示された学習課題を調べておく。
2	2. 援助の実践 (1) 食事の援助（経口摂取の援助） (2) 口腔ケア（臥床患者）		○	I				演習は、アツルーム。 白衣を着用。歯ブラシと歯磨き粉を持参。
3	3. 排泄援助 1) 健康生活における排泄の意義 2) 自然排泄と排便及び排泄行動を 阻害する要因 3) 排泄援助の種類・留意点 (1) トイレ・ポータブルトイレ (2) 床上排泄に使用する便器・尿器	○						☆小テスト③排泄のメカニズム ★事前に送信・提示された学習課題を調べておく。
4	便器を使用した床上排泄	○	○	I				演習は、アツルーム。 白衣を着用。ジャージ（下）を持参
5	清潔援助・衣類生活援助・ 入浴動作・整容について	○						☆小テスト④皮膚の構造と機能 ★事前に送信・提示された学習課題を調べておく。
6	寝衣交換	○	○	I				演習は、アツルーム。 ジャージ上下及びアンダーシャツを着用。 演習は、アツルーム。（白衣）
7	全身清拭・寝衣交換 （臥床患者）	○	○	I				演習は、アツルーム。（白衣） 課題プリント①
8	全身清拭・寝衣交換 （臥床患者）		○	I				演習は、アツルーム。（白衣）
9	洗髪		○	I				演習は、アツルーム。（白衣） 課題プリント②
10	洗髪		○	I				演習は、アツルーム。（白衣） 課題プリント③
11	足浴		○	I				演習は、アツルーム。（白衣） 課題プリント④
12	足浴		○	I				演習は、アツルーム。（白衣） 課題プリント④
13	陰部洗浄		○	I				課題プリント①～④の解説
14	課題プリントの解説	○		I				事例に対応した援助方法の検討
15	事例検討（シミュレーション）		○	I				
備考	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。							

基礎看護学

専門分野

授業科目	フィジカルアセスメント	講師	氏名	①諸石望美 ②滝辺 暲	開講年次	単位・時間		
			所属	①②専任教員				
			実務経験	①②臨床看護師				
目的の ねらい	対象を捉えていくためには、対象の健康状態を身体的・精神的・社会的な視点から統合的に捉えていくことが必要となり、それがヘルスアセスメントである。その中の特に身体的な情報を収集・査定していくことがフィジカルアセスメントである。看護におけるフィジカルアセスメントは、対象の健康状態の情報を収集して、その情報を専門的知識に基づいて分析・解釈し、対象の状況を判断し援助に活かす事である。正確なフィジカルアセスメントを行うためには、フィジカルイグザミネーションの正確な技術が不可欠である。これは、身体状況を客観的・系統的に把握する方法で、問診・視診・触診・聴診・打診などの技術を用いて行っていくことであり、この技術により得た情報は、専門基礎知識（からだの構造、からだの機能、病理学理論、各疾患など）を活用して解釈され、正常・異常の判断と共に、対象に必要な援助の抽出につながっていく。つまりフィジカルアセスメントを学ぶことは、適切な臨床判断と科学的根拠を持った看護技術の提供には不可欠なものといえる。ここでは、臨床判断能力の基礎となるヘルスアセスメントに不可欠なフィジカルイグザミネーション及びフィジカルアセスメントの基礎的技術を習得する。							
到達目標	1. ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関係性について説明できる。 2. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義と目的を説明できる。 3. 測定可能な生命徴候（バイタルサイン）である、体温測定・脈拍測定・呼吸測定・血圧測定を正確に実施できる。 4. 健康歴、バイタルサインの記録を正確に記述できる。 5. 全身及び系統別に把握するために、フィジカルイグザミネーションの方法・留意点について説明できる。 6. 全身及び系統別に把握するためのフィジカルイグザミネーションを正確に実施できる。 7. 呼吸器系、循環器系、消化器系、感覚・中枢神経系、および骨・骨格系のフィジカルアセスメントの前提となる基礎的知識を述べることができる。 8. フィジカルイグザミネーションにより得た情報について、アセスメントの前提となる基礎知識を使って解釈・判断できる。							
知識・技術	1. 事例から身体状態を論理的に思考・判断し、考えられる健康上の課題を1つ以上認識することができる。 2. バイタルサイン及びフィジカルイグザミネーションの実施では、得られた情報を適宜判断しながら重点アセスメントしなければいけないことに気づくことができる。 3. 得られた情報の正常・異常の判断を、正常値だけで判断せず、対象の健康状態や他の要因との関係を加味することで、対象に応じた判断が選択できる。 4. 専門基礎知識をより多く活用することが、正確な判断を導く手段であることを確認できる。 5. 事例に対し、フィジカルイグザミネーションの適切な優先順位を検討し、組み立て、実施し、その妥当性を対象の立場、医療者の立場で評価できる。							
思考・ 判断・表現	1. 既修の専門基礎知識については、主体的に復習し、活用できるように再構成できる。 2. 技術修得の為に、演習前後の自己学習を実施し、技術の修得に臨むことができる。 3. 学習に必要な文献検索を行い主体的に学習ポートフォリオに蓄積させ、講義終了後に蓄積された成果物を更に整理させ、オリジナルなものにまとめ提出できる。							
主体的学習 態度	1. 既修の専門基礎知識については、主体的に復習し、活用できるように再構成できる。 2. 技術修得の為に、演習前後の自己学習を実施し、技術の修得に臨むことができる。 3. 学習に必要な文献検索を行い主体的に学習ポートフォリオに蓄積させ、講義終了後に蓄積された成果物を更に整理させ、オリジナルなものにまとめ提出できる。							
科目評価	①定期試験（筆記）100% ②定期試験（筆記）80% 演習レポート（事前課題・事後課題の手順書、3回分の演習後レポート）10% プレ・ポストテスト10% 合計100% ①②ともに合格した者を単位取得とする。							
テキスト	系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I (医学書院)							
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院) 系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II (医学書院) プラクティス (Gakken) 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント アドバンス (インターメディア)							
回数			教育方法			講師	到達科目	留意事項
			講義	演習	3分 シミュ	その他		
1 2	1. ヘルスアセスメント 1) ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 2) フィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション 3) 看護におけるヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントの意義  2. フィジカルイグザミネーションの基本 1) 問診とフィジカルイグザミネーションの関係 2) 問診の技術 3) フィジカルイグザミネーションの4つの基本技術 (1) 視診 (2) 触診 (3) 聴診 (4) 打診		○				諸石望美	※テキストの該当ページを熟読しておく。 ①初回プレテスト
3	3. バイタルサイン（生命徴候） 1) 恒常性維持とバイタルサインの関係 2) バイタルサインのメカニズムと正常値及び測定方法 (1) 体温 (2) 脈拍 (3) 呼吸 (4) 血圧・眼圧 (5) 意識		○			II		※テキストの該当ページを熟読しておく。 ①「からだの構造」「からだの機能」を活用 ②各回プレテスト又はポストテスト
4			○	○		II		※事前課題・事後課題 ①事前に配布するバイタルサイン技術評価表を使って 手順書を作成する。 ②自己練習・演習を通して、手順書に修正追加の加筆をしていく。
5	4. 看護記録 1) 健康歴 2) バイタルサインなどの記録表		○	○		II		①作成した手順書を使い、演習前後に必ず自己練習をする。 ②演習時手順書は常に持ち歩き、修正追加の加筆をしていくこと。
6	5. バイタルサイン測定（体温、脈拍、呼吸、血圧）の実践			○		II		
7	6. 系統別フィジカルアセスメント 1) 呼吸器系		○	○		II	滝辺 暲	系統別フィジカルアセスメント ①「からだの構造」「からだの機能」を復習しておく ②各回プレテスト又はポストテスト
8	2) 心臓・血管系		○	○		II		※事前課題・事後課題 ①各講義開始までに、テキストの該当ページを熟読し、手順書を作成すること ②手順書は演習時持ち歩き、必要時修正追加の加筆すること
9	3) 消化器系		○	○		II		
10	4) 筋・骨格系		○	○		II		
11	5) 神経系		○	○		II		
12	6) バイタルサインとフィジカルアセスメントの実践 シミュレーション (1)			○		II		事例を用いた演習 ①演習前後に必ず自己練習を実施。 ②3回の演習では、「演習後レポート」を記載
13	シミュレーション (2)			○		II		
14	シミュレーション (3)			○		II		
15	7. まとめ 看護に不可欠なフィジカルアセスメント		○					演習レポート（事前課題・事後課題の手順書、3回分の演習後レポート）をファイリングして、講義終了後に提出
備考	【演習時】 ①学校指定のジャージ上下を着用 ②原則、アールーム ※変更がある場合は、グループクラスルームで伝達します。 臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。							

基礎看護学

専門分野

授業科目	看護過程	講師	氏名	前田寛美	開講年次	単位・時間	
			所属	専任教員			
			実務経験	臨床看護師	1年次後期	2単位 45時間	
科目のねらい	看護過程とは、看護理論と看護実践をつなぐものであり、看護の目標を達成するための科学的な問題解決法を応用した思考過程の道筋とされ、系統的・網羅的な思考過程である。しかし、その看護過程を活用して看護を展開するためには、問題に気づく力、批判的思考や意思決定能力、創造的思考などの知的技能が必要となる。特に即興的な判断とアクションを求められる看護の現場では、「気づき」から「今何が起き、何が重要であるか」を判断しなければならない。それは、看護過程の系統的・網羅的な思考過程では困難であり、臨床判断モデルの活用となる。つまり対象に応じた看護の展開を行うためには、看護過程という思考過程と併せて臨床判断モデルの活用も重要になる。 ここでは、まず看護過程を使った看護の展開方法の基礎を学び、さらに状況に応じた看護を展開するための臨床判断について、学習を深め、問題解決能力を身につける。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践における看護過程の意義・定義を説明できる。</li> <li>2. 看護過程は立案プロセスと運用プロセスにより成り立ち、その構成要素について説明できる。</li> <li>3. 看護過程と看護診断の関係を基に看護診断プロセスを活用して問題の妥当性を検証できる。</li> <li>4. ロイ適応看護理論を使った看護過程の特徴を説明できる。</li> <li>5. 事例に対し、ロイ適応看護理論を使った看護過程のプロセスを実施できる。</li> <li>6. 臨床判断モデルの概要として、「気づき」「解釈」「反応する」「省察」を説明できる。</li> <li>7. 看護記録の目的が説明できる。</li> <li>8. 所定の形式に沿って、看護記録（看護診断・介入・経過記録）が書ける。</li> </ol>						
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「臨床判断モデル」と「看護過程」の関係について説明できる。</li> <li>2. 臨床判断モデルのプロセスから、何故「気づき」が重要であるか、どのような「気づき」が必要なのかを考察できる。</li> <li>3. 場面から、「気づき」「解釈」「反応する」「省察」を経験し、看護師にとって必要な「気づき」とは何かを考察できる。</li> <li>4. NANDA-1看護診断を使って問題の妥当性を他者と検証し、適切な看護診断を提案できる。</li> <li>5. ロイ適応看護理論に基づき、刺激を明確にすることが介入を具体的に提示できることを実感できる。</li> <li>6. シミュレーションにおいて、臨床判断したこと、計画の修正追加したことを看護記録に記載することで、運用プロセスを実践できる。</li> </ol>						
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の考えを言葉や文字で表現できる。</li> <li>2. 他者の意見を受容しつつ、積極的に質問や意見を伝えることができる。</li> <li>3. 自分と他者の「気づき」の違いを評価し、その違いに影響を与えている因子に対し解決策を相談できる。</li> <li>4. メンバーと協力しながらグループワークに参加できる。</li> <li>5. 積極的に文献を検索し活用できる。</li> <li>6. 講義内の課題に自発的に取り組み、理解していく姿勢を示すことができる。</li> <li>7. 理解が困難な状況が発生したとき、自ら指導を受ける行動がとれる。</li> </ol>						
科目評価	事例②肺炎患者の介入立案 演習レポート 課題の提出状況	40%	60%	合計100%			
テキスト	ロイ適応看護理論の理解と実践 (医学書院) NANDA-1看護診断 (医学書院) 系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護学技術Ⅰ (医学書院)						
参考文献	アセスメントに自信がつく臨床推論入門 小澤知子 (メディカ出版) 看護過程と看護診断 古橋洋子 (医学書院) はじめて学ぶ看護過程 古橋洋子 (医学書院) 事例で分かる看護理論と看護過程 小田正枝 (照林社)						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	1. 看護を展開するために必要な道具 1) 看護過程 2) 看護過程と看護理論 2. ロイ適応看護理論と看護過程 1) ロイ看護理論の概要 2) ロイ看護理論に基づく看護過程	○			前田寛美	看護学へようこそ 看護理論の基礎 人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進 各専門看護学 看護展開実習	ロイ適応理論の復習をしておくこと 課題（1回目の講義で説明）：事例に関する学習
2	3) ロイ適応看護理論を基に看護過程を使って看護を展開 (1) 立案プロセスと記録様式（事例①を基に展開） ①行動のアセスメント・仮問題 ②関連図 ③刺激のアセスメント ④看護診断 ⑤優先順位と診断リスト ⑥目標 ⑦介入（立案）	○					事例①便秘を訴える患者 事例②肺炎症状を訴える患者
3		○					
4		○					
5		○					
6		○					
7		○					
8		○					
9		○					
10		○					
11		○					
12		○					
13		○					
14		○					
15		※事例②の介入立案についてのオリエンテーション	○				
16	(3) 運用プロセスと記録様式 ①介入（実践）と経過記録	○					課題：演習ごとに随時、講義の中で提示する。
17	②評価	○					
18	4. 看護過程と臨床判断 1) 看護実践で求められるもの 2) 臨床判断とは何か。 3) 臨床判断モデルの概要 5. 事例展開シミュレーション (看護過程と臨床判断) 6. まとめ	○					課題：演習ごとに随時、講義の中で提示する。 シミュレーションルーム（東館）において演習を予定、その他準備については事前に提示。
19		○					
20		○	○				
21		○	○				
22		○	○				
23		○	○				
備考	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						

基礎看護学

専門分野

授業科目	診療補助援助技術Ⅰ	講師	氏名	①前野美里・田中友記 ②安武夕子 ③西岡加代子	開講年次	2年次 前期	単位・時間	1単位 30時間
			所属	①病院 ②専任教員				
			実務経歴	①皮膚・排泄ケア認定看護師 ②臨床看護師				
科目のねらい	治療には、身体侵襲や苦痛を伴うものが多い。ここでは特に治療のために必要な処置を理解し、対象者の侵襲や苦痛を最小限にした安全・安楽な診療の補助援助技術の基礎を学ぶ。							
到達目標								
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 無菌操作の基本が実施できる。</li> <li>2. 内科的ガウンテクニックの基本動作が実施できる。</li> <li>3. 創傷の種類と治療過程について、説明できる。</li> <li>4. 創傷の管理について説明できる。</li> <li>5. 創の保護について、包帯法も含めその種類と方法を説明できる。</li> <li>6. ドレッシング剤の張り方・はがし方及び包帯法を実践できる。</li> <li>7. 中央静脈・酸素ボンベの取り扱い及び、酸素投与器具・吸入の種類と特徴を説明できる。</li> <li>8. 酸素投与器具を適切に取り扱うことができる。</li> <li>9. 口腔・鼻腔内及び気管内吸引の留意事項を説明できる。</li> <li>10. モデル人形に対し、安全に口腔・鼻腔内及び気管内吸引が実施できる。</li> <li>11. 体位、流膿液の温度、挿入の長さを解剖学的根拠を説明できる。</li> <li>12. モデル人形に対して流膿液の注入ができる。</li> <li>13. 導尿の目的と種類及び留意事項を説明できる。</li> <li>14. モデル人形に対し、基礎的な無菌操作の基、安全に一時導尿及び膀胱留置カテーテルによる導尿が実施できる。</li> <li>15. 経管栄養法について、目的とその留意事項を説明できる。</li> <li>16. モデル人形に対し、経管栄養法における胃管チューブの挿入が適切に実施できる。</li> <li>17. モデル人形に対し、経管栄養法における流動液の注入が適切に実施できる。</li> </ol>							
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 苦痛のある処置に対して配慮した声かけができる。</li> <li>2. 処置を受ける対象者の心情を考慮した援助を検討できる。</li> <li>3. エビデンスをもって、援助技術を計画、実施、評価できる。</li> <li>4. 発達段階の異なる対象に対する治療処置技術の実施方法の選択を検討できる。</li> <li>5. 様々な健康障害を想定し、対象に応じた治療処置技術の選択を検討できる。</li> </ol>							
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の構造と機能を復習し、治療処置技術の根拠として活用できる。</li> <li>2. 実技演習の事前準備が主体的に行動できる。</li> <li>3. 教員に指導を受けるための主体的アプローチができる。</li> </ol>							
科目評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>①定期試験（実技）100%</li> <li>②定期試験（筆記）100%</li> <li>①②ともに合格した者を単位取得とする。</li> </ol>							
テキスト	系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）							
参考文献	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術（メディカ出版） 看護技術プラクティス（Gakken） 写真でわかる基礎看護技術Ⅰアドバンス（インターメディカ） 看護技術ペーシックス（サイオ出版）							
回数	教育内容	教育方法				講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	到達レベル	その他			
1	無菌操作（帽子・手袋・滅菌パック・消毒）		○	Ⅱ		安武夕子	からだの構造から見た機能 日常生活から見るからだ 小さな生物 療養生活援助技術Ⅱ 各専門看護学	テキストの学習と提示しているQRコードから動画を視聴し、演習に臨む。 演習時は白衣着用、アツルーム 終了後、課題プリント①
2	ガウンテクニック・手袋		○	Ⅱ				終了後、課題プリント②
3	包帯法・三角巾・巻法		○	Ⅱ				
4	1～3 まとめ・解説		○					
5	創傷処置、褥瘡の基礎知識		○	Ⅱ		田中友記・前野美里		
6	褥瘡処置		○	Ⅱ				
7	酸素吸入療法・吸入、吸引（口腔内・気管内）		○	Ⅱ		西岡加代子	終了後、課題プリント③	
8	酸素吸入療法・吸入、吸引（口腔内・気管内）		○	Ⅱ				
9	一時的導尿（男性・女性）		○	Ⅱ				
10	持続的導尿（男性・女性）		○	Ⅱ			終了後、課題プリント④	
11	流膿・摘便		○	Ⅱ			終了後、課題プリント⑤	
12	7～11 まとめ・解説		○					
13	経鼻経管栄養・胃チューブ挿入		○	Ⅱ		安武夕子	終了後、課題プリント⑥	
14	経鼻経管栄養・胃チューブ挿入		○	Ⅱ				
15	解説・まとめ		○					
備考	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。							



基礎看護学

専門分野

授業科目	診療補助援助技術Ⅱ	講師	氏名	①内藤直美 ②兼本恵美	開講年次	単位・時間		
			所属	①②専任教員				
			実務経験	①②臨床看護師	2年次 前期～後期	1単位 30時間		
科目のねらい	治療には、身体衰弱や苦痛を伴うものが多い。ここでは特に治療のために必要な検査・与薬について理解させ、対象者の衰弱や苦痛を最小限にした安全・安楽な診療の補助援助技術の基礎を学ぶ。							
到達目標								
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 検体の採取方法、留意点を説明できる。</li> <li>2. 簡易血糖測定の的確な実施ができる。</li> <li>3. 注射法の目的・方法・留意事項を説明できる。</li> <li>4. モデル人形に対して、安全に筋肉内注射が実施できる。</li> <li>5. モデル人形に対して、安全に採血が実施できる。</li> <li>6. モデル人形に対して、安全に静脈内注射が実施できる。</li> <li>7. 点滴静脈内注射の目的・留意事項を説明できる。</li> <li>8. 中心静脈栄養法の目的・方法・留意事項を説明できる。</li> <li>9. 点滴静脈内注射の準備・固定法と滴下調整ができる。</li> <li>10. 輸液ポンプの取り扱いを説明できる。</li> <li>11. 輸液療法中の日常生活援助が適切に実施できる。</li> <li>12. 輸血管理の基礎知識が説明できる。</li> </ol>							
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 苦痛のある処置に対して配慮した声かけができる。</li> <li>2. 処置を受ける対象者の心情を考慮した援助を検討できる。</li> <li>3. エビデンスをもって、援助技術を計画、実施、評価できる。</li> <li>4. 発達段階の異なる対象に対する治療処置技術の実施方法の選択を検討できる。</li> <li>5. 様々な健康障害を想定し、対象に応じた治療処置技術の選択を検討できる。</li> </ol>							
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の構造と機能を学習し、治療処置技術の根拠として活用できる。</li> <li>2. 実技演習の事前準備が主体的に行動できる。</li> <li>3. 教員に指導を受けるための主体的アプローチができる。</li> </ol>							
科目評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>①定期試験（実技）100%</li> <li>②定期試験（筆記）100%</li> <li>①②ともに合格した者を単位取得とする。</li> </ol>							
テキスト	系統別看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 系統別看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）							
参考文献	看護技術プラクティス (Gakken) 写真でわかる臨床看護技術1アドバンス (インターメディカ)							
回数	教育内容	教育方法					関連科目	留意事項
		講義	演習	到達レベル	その他	講師		
1	検体検査の取り扱い（血液、尿・便、喀痰）	○					からだの機能 からだの構造 日常生活から見るからだ 臨床薬理学 各専門看護学	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習時は白衣着用、アーツルーム</li> <li>2. 手順書を作成して演習に臨む。</li> <li>3. 演習後に必ず自己練習を実施する。</li> </ol>
2	血糖検査 簡易血糖測定（演習）	○	○	Ⅱ				
3	与薬（基礎知識、経口・口腔内）	○		Ⅱ				
4	与薬（吸入、点眼、点鼻、経皮、直腸内）	○		Ⅱ				
5	注射法（基礎知識、皮下・皮内）	○						
6	注射法（筋肉内 静脈内・点滴）	○						
7	筋肉内注射		○	Ⅲ				
8	採血・静脈内注射		○	Ⅲ				
9	点滴静脈内注射の管理（ルート固定・滴下調整）輸液ポンプ、シリンジポンプ	○		Ⅲ				
10	輸液療法：準備から滴下まで		○	Ⅲ				
11	輸液療法中の日常生活援助の実際 更衣、移動の援助技術		○	Ⅰ				
12								
13	中心静脈カテーテル留置の介助	○						
14	輸血管理	○		Ⅱ				
15	放射線の被ばく防止策の実施 生体検査	○		Ⅰ				
備考	臨床（病棟）での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。							

基礎看護学

(令和6年度3年生用)

専門分野

授業科目	看護研究	講師	氏名	戸田真理	開講年次	3年次 通年	単位・時間	1単位 45時間
			所属	専任教員				
			実務経験	臨床看護師				
科目のねらい	看護における研究の役割を理解し、研究の方法について基本的知識を学び、文献検索の重要性、看護研究における倫理的問題を理解する。							
到達目標								
知識・技術	1. 看護における研究の意義と役割について理解し、説明できる。 2. 研究の種類を4つ挙げ、それぞれについて特徴を理解し、説明できる。 3. 研究発表を通して研究の基礎的プロセスを学ぶ。 4. 看護における倫理的配慮について具体的に述べることができる。 5. 文章を論理的に構成し論文作成ができる。							
思考・判断・表現	1. 看護研究に必要な先行文献を調べる際、ICTの基礎を活用した文献検索を実施できる。 2. 先行研究を読み、クリティークすることができる。 3. 看護研究を実施することで、基本的な研究プロセスを学ぶことができる。 4. 研究計画書を作成、記載することができる。 5. 研究の成果を発表できる。							
主体的学習態度	1. グループ間で課題達成のための協力ができる。 2. 研究発表では積極的に意見交換ができる。 3. 看護研究を計画的に実行することができる。							
科目評価	事前課題レポート10% クリティークレポート20% 看護研究レポート及び発表70% (研究計画書及び発表中の態度) 合計100%							
テキスト	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学④ 看護研究 (メディカ出版)							
参考文献	学生のためのわかりやすい研究の進め方 (照林社)							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	看護研究における研究における意義と重要性 研究プロセス	○			戸田真理  倫理学 ICTの基礎 教育学 論理学Ⅰ(論理的思考) 論理学Ⅱ(批判的思考) 医療安全 専門看護学実習		<事前課題> 興味のある研究について 授業前に読み理解を深めておく。	
2	研究テーマの選定、リサーチエスジョン	○						
3	文献検索 論文クリティーク	○	○					各自興味のある分野について文献検索を行いクリティークしたい論文を決定する。その論文をクリティークし、提出のこと。
4	研究倫理(医療倫理)	○						
5	量的(仮説検証型、調査研究)研究の基礎 質的(内容分析、KJ法)研究の基礎	○						
6	研究計画書の作成	○						興味のある研究テーマを決定し、研究計画書に記載する。
7	研究論文作成、ポスター発表準備	○	○					
8	看護研究の実施							看護研究開始前に研究課題となる概要について、提示する。その研究課題を参考に、興味あるものを選定しグループ活動を通して研究に取り組む。 看護研究は教員の指導の下進めていくので、早めに各指導教員と指導計画を立案しオフィスアワーを活用すること。また指導を受ける際は、毎回グループ全員で受けること。
9								
10								
11								
12								
13								
14				○				
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21	看護研究発表とまとめ							クラスで発表会を運営参加者は積極的に意見交換に望むこと
22		○	○					
23								ループリックで自己評価
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。							

地域・在宅看護論

(令和6年度1年生用)

専門分野

授業科目	地域と暮らし	講師	氏名 藤本洋子	開講年次	単位・時間		
			所属 専任教員	1年次 前期	1単位 30時間		
			実務経験 臨床看護師				
科目のねらい	福津市で暮らす人々の日々の生活とあらゆる健康レベルにある個人・家族、集団、地域を対象とした健康課題に気付き、「自助・互助・共助・公助」の実際を知り看護師の役割を考えることができる。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域、生活をとらえ、周辺の地域の特性を知る。</li> <li>2. 地域で暮らす人々の生活を知り、年代、あらゆる健康レベルにある個人・家族、集団、地域の特性を述べるができる。</li> <li>3. 地域の郷づくりの特徴を述べるができる。</li> <li>4. 「自助・互助・共助・公助」の実際を説明できる。</li> </ol>						
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福津市の地域コミュニティの特性について、地域活動・インタビューを通して地域で暮らす人のライフストーリー、生活状況を検討し事例発表する。</li> <li>2. 地域活動を通して、関わる人々の生活上の問題点、家族の在り方について討議し自己の考えを再構成することができる。</li> <li>3. 社会資源の現状評価、SDGsの視点で社会資源の創出をグループワークで述べるができる。</li> </ol>						
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループワークで、自分の意見を積極的に述べ、ディスカッションすることができる。</li> <li>2. 教科書及び講義で学んだ知識をベースに他の文献も活用して基礎的知識、講義での知識を活用し自己学習することができる。</li> <li>3. 他者の意見を受け入れ、認めることができる。</li> </ol>						
科目評価	地区踏査・地域活動のレポート評価60% (30%、30%) グループワーク参加状況10% (減点方式) 終講後レポート30% 合計100%						
テキスト	医学書院 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論I						
参考文献	系統別看護学講座 在宅看護論 (医学書院)						
回数	教育内容	教育方法 講義 演習 その他			講師	関連科目	留意事項
1	自分の暮らし、友人の暮らし SDGs オリエンテーション	○	○		藤本洋子	公衆衛生 文化人類学	教科書：「人々の暮らしの理解」を読んでおく
2	暮らしとは何か、福津市のコミュニティを知る (GW)		○				教科書「暮らしと地域」を読んでおく。福津市郷づくり (情報収集) /地域活動について調査 企画書提出し、アポイント取得
3	地域でのコミュニティ (GW) 地区踏査/オリエンテーション		○				対話/まち歩き 実際に、地域に出て地域の人にインタビューしてみる *期間を指定し、その間に地区踏査を実施
4			○	○			
5	地区踏査		○	○			
6			○	○			
7			○	○			
8	地域で暮らす人々を取り巻く環境		○			公衆衛生 社会保障 健康教育	社会資源：福津市で暮らす人々の社会資源について調べる。福津市で暮らす人々の環境にはどのような特徴があるのかグループワーク
9	地域で暮らす人々を取り巻く環境		○				
10	SDGs 社会資源の評価 社会資源の創出		○			発達心理学 家族看護学 多言語コミュニケーション	GW：現在の社会資源について現状を評価する。SDGsの視点で社会資源の創出を考える。創出した社会資源を地域活動に活かす。
11	SDGs 社会資源の評価 社会資源の創出		○				地域に出て地域活動に参加 *夏季休業中に活動を実施する
12	地域活動		○	○			
13	地域活動		○	○			
14	「自助・互助・共助・公助」の実際と看護師の役割		○				地域と暮らしの授業を通して、福津市の地域の特徴、地区踏査、地域活動を実施し自身が感じた暮らしについて述べること。 (レポート)
15	発表		○				
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						

地域・在宅看護論

専門分野

授業科目	在宅看護論	講師	氏名	安藤 真由美	開講年次	2年次 前期～後期	単位・時間	1単位 30時間
			所属	事業所	実務経験	訪問看護師		
科目のねらい	少子・超高齢化社会における在宅看護の対象を捉え、対象のニーズに対応した地域包括ケアシステムの仕組みを理解した上で療養者の安全、権利擁護活動を行う重要性を考え、看護師の役割を多職種連携・協働を通して考える。							
到達目標								
知識・技術	1. 世界での在宅看護の変遷を理解し、日本における在宅看護の変遷の違いを説明できる。 2. 在宅看護の必要性と制度の概要を説明できる。 3. 地域包括ケアシステムの仕組みでは常に地域で療養している人々とその家族が中心になることを説明できる。							
思考・判断・表現	1. 地域包括ケアシステムが構築されることにより人々の健康的な生活に与える影響を説明できる。 2. 訪問看護の現状と問題点、在宅で療養する看護の現状と問題点についてグループワークでまとめ発表できる。 3. 地域包括ケアシステムでの多職種の役割・看護師の役割について発表し学びを共有できる。 4. 療養者の安全を守る、権利擁護活動について看護師が果たす役割について説明することができる。							
主体的学習態度	1. 事前学習をして参加しグループワークで、自分の意見を積極的に述べ、ディスカッションすることができる。 2. 教科書及び講義で学んだ知識をベースに他の文献も活用して基礎的知識、講義での知識を活用し自己学習することができる。							
科目評価	定期試験(筆記) 100% 合計100%							
テキスト	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②在宅療養を支える技術 (メディカ出版)							
参考文献	系統別看護学講座 在宅看護論 (医学書院)							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	地域・在宅看護の概念 (1) ①地域・在宅看護の背景 ②社会的背景と国民の価値観の変容	○			安藤真由美	家族看護学 公衆衛生	人口減少と疾病構造の変化、家族の変化について事前に学習しておく。	
2	在宅看護の概念 (2) ①日本の地域・在宅看護の変遷と今後の課題 ②在宅看護 (世界と日本の違い)	○				文化人類学	世界での在宅看護の歴史について事前に学習しておく。	
3	在宅看護の概念 (3) 地域・在宅看護の基盤 ①地域・在宅看護活動 ②在宅ケア	○				社会福祉 社会保障 公衆衛生 健康教育	訪問看護ステーション創設の経緯について事前に学習しておく。	
4	グループワーク・発表		○				事前学習、講義を基に「訪問看護師に求められる役割」についてグループワークを行う。	
5	在宅療養者と家族の支援 (1) ①地域・在宅看護の対象と背景 ②法制度からみた対象者 ③ライフサイクルからみた対象者	○				地域と暮らし 家族看護学		
6	④健康レベルからみた対象者 ⑤疾患からみた対象者 ⑥障害レベルからみた対象者 ⑦地域社会における生活者としての対象者 ⑧状態別・状況別対象者	○				地域と暮らし 家族看護学	在宅で療養する療養者について復習しておく	
7	在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 在宅療養の場における家族のとらえ方 グループワーク・発表	○	○				事前学習、講義を基に「在宅で療養する家族の現状 (世代による違い)」についてグループワークを行う。	
8	①地域療養を支える在宅看護の役割、機能 ②地域・在宅看護を展開するための基本理念 ③地域・在宅看護における倫理	○					セルフケア理論、保健行動理論、アドボカシー、エンパワメント、自己効力感、パートナーシップ、ストレングス、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションを理解しておく。	
9		○						
10	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 ①地域アセスメント ②地域包括ケアシステム	○				全ての専門分野 社会福祉 地域生活支援	地域療養を支える制度教科書 p142 ①社会資源の活用 ②医療保険制度 ③後期高齢者医療制度 ④介護保険制度 ⑤生活保護制度 ⑥障害者に関連する法律 ⑦難病法 ⑧子どもの在宅療養を支える制度と社会資源を復習、理解しておく。	
11	在宅療養を支える訪問看護 ①訪問看護の特徴 ②在宅ケアを支える訪問看護ステーション ③訪問看護サービスの展開 ④訪問看護の記録	○						
12	在宅看護における安全と健康危機管理 ①在宅看護における危機管理 ②日常生活における安全管理 ③災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理	○				医療安全 地域生活支援		
13		○						
14	グループワーク・発表			○			教科書 p246のALSの事例を基に福津市での災害対策を検討する	
15	まとめ	○		○				
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。							

専門分野

授業科目	在宅療養を支える技術	講師	氏名	開講年次	単位・時間		
			①藤本祥子 ②西岡加代子 ③橋本喜美代				
			所属			①②専任教員 ③訪問看護ステーション	
実務経験	①②臨床看護師 ③訪問看護師						
科目のねらい	在宅療養の主体は療養者と家族であり、社会資源・多職種との連携を活用しながら日々暮らしている。専門職として私達は先ず、療養者と家族が在宅療養を決断した背景・思いを理解することが重要である。その上で在宅療養者の疾患・病期・生活状況をアセスメントし、在宅での生活者の視点に沿った在宅看護援助を検討しなければならない。その為、この授業では演習を通して在宅にある物品を活用した援助方法を検討する。更に療養者の状況に合わせた観察、緊急時の対処方法を身につけるための支援方法を習得する。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>在宅看護における初回訪問時の目的および留意点を説明できる。</li> <li>医療処置を受けながら生活する療養者と家族への訪問看護の役割を説明できる。</li> <li>在宅で行われる医療処置について、看護のポイントが説明できる。</li> </ol>						
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>療養者の生活に則した看護援助の工夫をグループワークを通して検討、実践することができる。</li> <li>信頼関係を構築するために接遇マナーが重要であることを演習を通して実践したことを基に説明できる。</li> <li>在宅で暮らす療養者、家族の思いを考え、述べるができる。</li> <li>在宅で出会う事例を基に訪問看護師の視点、家族・介護力のアセスメント内容について検討し発表を通して提案できる。</li> <li>訪問看護でのバイタルサイン測定を実施し病院で行う違いに気付き説明できる。</li> </ol>						
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>グループワークで、自分の意見を積極的に述べ、ディスカッションすることが出来る。</li> <li>教科書及び講義で学んだ知識をベースに他の文献も活用して基礎的知識、講義での知識を活用し自己学習することができる。</li> </ol>						
科目評価	定期試験 筆記100% 合計100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②在宅療養を支える技術 (メディカ出版)						
参考文献	系統別看護学講座 在宅看護論 (医学書院)						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	在宅における援助技術 (1) 初回訪問	○			藤本祥子	文化人類学 多言語コミュニケーション 医療現場のコミュニケーション 在宅看護論  各専門看護学	学校指定のポロシャツ・ズボンで演習：教科書で初回訪問に必要なことを学び一般的な接遇マナーを復習し、実践が出来るようにイメージトレーニングしておく。
2	在宅における援助技術 (2) 初回訪問		○				
3	訪問時のアセスメント		○				
4	在宅での看護過程の特徴		○				
5	在宅看護介入 (1) 在宅療養準備期 在宅療養移行期	○					
6	(3) 在宅療養安定期	○					
7	(3) 急性増悪期 期(看取り期)	○		(4) 終末			
8	療養の場の移行に伴う看護	○					
9	事例検討：脊髄損傷 アセスメントの視点	○	○				
10	データベース作成	○	○				
11	家族・介護力のアセスメント	○	○				
12	シミュレーション・まとめ	○	○				
13		○	○				
14	在宅における援助技術 事例における日常生活援助の検討 検討内容について発表	○	○		西岡加代子	学校指定のポロシャツ・ズボンで、スクディールームにグループごとに着席しておくこと  教科書で在宅での食事・排泄・清潔・移動について確認し、病院と在宅の違いについて考えておく。	
15		○	○				
16	日常生活援助の工夫 清潔・整容		○		橋本喜美代	学校指定のポロシャツ・ズボンで演習：療養生活を支える援助技術で学習した援助技術を病院ではなく、在宅にある物品や身近にある物を利用して工夫して実践する。グループで援助を検討し実践する。  フィジカルアセスメント、診療補助援助技術を復習しておく(アネロイド血圧計)	
17	訪問看護におけるバイタルサイン測定 医療処置 コミュニケーション 教育指導の実践(臨床との違い)	○					
18	①バイタルサイン測定 ②服薬管理・指導方法	○					
19	③呼吸管理、人工呼吸器 気管カニューレ 在宅酸素療法	○					
20	④カテーテル管理、膀胱留置カテーテル 持続皮下注射	○					
21	⑤褥瘡予防・処置 排泄の援助、ストマ管理	○					
22	⑥栄養管理、経管栄養法、胃ろう・注腸 在宅中心静脈栄養法	○					
23	⑦重症患児の在宅療養における援助技術 ⑧在宅ターミナル期の援助	○					
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						

地域・在宅看護論

(令和6年度3年生用)

専門分野

授業科目	暮らしを支える	講師	氏名	①西岡加代子 ②石出昌子 ③野中多恵子 ④藤本祥子	開講年次	3年次 前期	単位・時間	2単位 45時間
			所属	①④専任教員 ②地域包括支援センター ③保健所				
			実務経験	①④臨床看護師 ②主任介護支援専門員 看護師 ③保健師				
科目のねらい	在宅看護における看護の展開は、在宅医療の対象である療養者、家族の生活、様々な価値観を尊重した長期的な視点での看護実践である。対象が疾患や障害によって変化してきた生活を考え、在宅医療チームの看護専門職として、療養者の疾患、病期そして療養者の強み、家族の介護力をアセスメントし、多職種と連携し多角的に対象の生活上のニーズを捉え、社会資源を活用した対象のQOL維持向上について理解を深める。							
到達目標								
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>常に療養者と家族の生活、様々な価値観を尊重した長期的な視点を持って検討できる。</li> <li>療養者の疾患、病期、能力、家族介護力について説明できる。</li> <li>家庭訪問を通して地域の方と関わり、コミュニケーションを取りながらその方が暮らしてきた時代、背景について知り関わりの中でその方が現在抱える生活上の問題点について考え発表できる。</li> <li>地域の保険医療活動における行政の役割を知り地域特性を活かした社会資源活用の提案ができる。</li> </ol>							
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域で暮らす高齢者の生活を知り、全体像から家族アセスメントを行い療養生活を継続するための支援が提案できる。</li> <li>地域で暮らす療養者、家族との関わりをエコマップ、円環パターンを使って解釈し療養者の強みを活かした支援を発表を通して提案できる。</li> <li>療養者、家族が在宅での生活を望む理由を列挙し理由を検討することができる。</li> </ol>							
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>グループワークで、自分の意見を積極的に述べ、ディスカッションすることができる。</li> <li>地域活動、高齢者の家庭訪問で対象に適した相手を尊重した態度で関わりあうことができる。</li> <li>教科書及び講義で学んだ知識をベースに他の文献も活用して基礎的知識、講義での知識を活用し自己学習することができる。</li> </ol>							
科目評価	単元別テスト(5点×6回) 30% 定期試験(筆記) 70% 合計100% (欠席しても追試験は行わない)							
テキスト	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア(メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②在宅療養を支える技術(メディカ出版)							
参考文献	系統別看護学講座 在宅看護論 (医学書院)							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	暮らしを支える オリエンテーション 家庭訪問についてのオリエンテーション	○	○		西岡加代子	全ての専門看護学	地域で暮らす高齢者の理解に繋がる観察について事前に学習しておく 単元別テスト：介護保険制度制度①	
2	家庭訪問：地域の一人暮らしの自宅へ訪問事例			○			地域の高齢者(一人暮らし)の家庭訪問 1グループ：4人	
3		○		○				
4	発表	○	○				地域で暮らす療養者、家族との関わりをコミュニケーションを通して情報収集、訪問して得た生活状況を発表する。 単元別テスト：介護保険制度制度②	
5		○	○				グループワークで社会資源を検討	
6	事例検討	○	○		石出昌子		福津市での社会資源の活用について検討	
7		○	○				地域包括支援センターの役割、事例を通して社会資源について検討	
8	介入の検討：地域における社会資源の活用	○	○				地域活動演習：模擬ケア会議	
9	地域共生社会：福津市の地域特性を活かした地域包括支援センターの役割	○					地域活動演習：模擬ケア会議	
10		○						
11	地域包括ケアシステム：模擬ケア会議		○		野中			
12			○					
13	行政の役割：地域連携、保健所の役割	○						
14	事例検討 脳性麻痺の児と生活する家族アセスメント、社会資源		○		藤本祥子		対象が、小児であることを考え、発達段階に応じたアセスメント、社会資源を検討 単元別テスト：訪問看護制度③	
15		○	○					
16	社会資源について：発表	○	○					
17	事例検討 心疾患を持って暮らす高齢者の家族アセスメント、緊急時の対応について(心不全)	○	○				緊急時の対応について、自治体での違いも検討 単元別テスト：訪問看護制度④	
18		○	○					
19	事例検討 難病を抱えて暮らす療養者の価値観、社会資源、家族アセスメント、緊急時、災害時の対応について(ALS)	○	○				単元別テスト：障害者総合支援法⑤	
20		○	○					
21	発表	○	○				事例検討の介入計画を発表 ALS、心不全、脳性麻痺	
22	発表	○	○					
23	発表/まとめ	○	○					
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。※単元別テストは欠席しても追試験は行わない							

成人看護学

専門分野

授業科目	成人看護学総論	講師	氏名	①植田園美 ②戸田真理	開講年次	単位・時間		
			所属	②専任教員				
			実務経歴	①②臨床看護師				
科目のねらい	成人期は青年期・壮年期・向老期と人生で最も長い期間社会的役割を担う時期であり、その役割の変化に適応していき、自立し自律した存在である。成人看護学総論では成人を身体的・心理的・社会的側面から成長発達する存在として捉えると同時に、成人の健康と健康生活の特徴を捉えていく。成人期の生活習慣が壮年期以降の健康状態に大きく影響することを理解し、成人の健康生活を育む看護活動や成人の健康が破綻したときの看護について学ぶ。							
到達目標								
知識・技術	1. 成人期の各期の特徴と発達課題を説明できる。 2. 成人の生活と健康の説明できる。							
思考・判断・表現	1. 成人における健康の保持・増進や疾病の予防について考察できる。 2. 成人を取り巻く様々な要因に関連した健康障害について言語化できる。							
主体的学習態度	1. 自己を取り巻く健康に関する環境について考えることができる。							
科目評価	①定期試験(筆記) 60% ②課題(レポート含) 20% ③発表資料30% 合計100%							
テキスト	系統看護学講座 成人看護学[1] 成人看護学総論 (医学書院)							
参考文献	ナーシンググラフィカ 成人看護学 ① 成人看護学概論 (メディカ出版)							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	I 成人の生活と健康 1 対象の理解：大人になること・大人であること 2 対象の生活：働いて生活を営むこと	○			植田園美	看護学へようこそ 発達心理学 家族看護学 文化人類学 医療人類学 地域生活支援 社会保障 公衆衛生	事前課題① 「成人期にある人の理解」 (各理論家の発達段階・発達課題について) (1回目までの事前課題)	
2	II 生活と健康 1 成人を取り巻く環境と生活から見た健康 2 生活と健康を守り育むシステム	○					事前課題② 「成人への看護アプローチ」 について (3回目までの事前課題)	
3	III 成人への看護のアプローチの基本 1 アンドラゴジー (概要) 2 コンプライアンス・アドヒアランス 3 エンパワメント	○						
4	4 自己効力感 5 チームアプローチ	○						
5	IV 健康を脅かす要因と看護 1 生活習慣に起因するもの 2 職業環境に起因するもの	○						事前課題③ 「生活習慣病について」 (5回目までの事前課題)
6								
7	V・青年期の特徴 1 青年期とは 2 成長発達の特徴 3 身体的・心理的・社会的な特徴 4 生活の特徴	○			戸田真理			
8	1) 成人の生活を理解する視点と方法 2) 健康観の多様性と看護 5 学習の特徴と理解			○				
9	V・壮年期の特徴 1 壮年期とは 2 成長発達の特徴 3 身体的・心理的・社会的な特徴 4 生活の特徴			○				
10	1) 成人の生活を理解する視点と方法 2) 健康観の多様性と看護 5 学習の特徴と理解			○				
11	V 向老期の特徴 1 向老期とは 2 成長発達の特徴 3 身体的・心理的・社会的な特徴 4 生活の特徴			○				
12	1) 成人の生活を理解する視点と方法 2) 健康観の多様性と看護 5 学習の特徴と理解	○				事前課題④ 「健康段階とは」 (各段階の看護の特徴について)		
13	VII・1 宗看クウン作りと発表 2 疾患が及ぼす影響を考える 3 健康段階について			○		*今までの学習をもとに町づくり		
14				○				
15	X・「成人期を健やかに過ごす」を考える			○				
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。							

成人看護学

専門分野

授業科目	セルフケア再獲得に向けた看護	講師	氏名	①植田園美	開講年次	単位・時間	
			所属	①専任教員			
			実務経験	①臨床看護師			
科目のねらい	成人期は多様な価値観・生き方や社会的役割を持つ。その成人期の対象が生命の危機状態から脱し、不慮の事故や疾病により何らかの機能障害を負い、援助を必要とするときにその対象を疾病や障害とともに生きる「生活者」として捉え、「その人らしく生きること」を支援するために、社会復帰に向けた看護の重要性を学ぶ。また、本来高いセルフケア能力を持つ成人が再びその人らしく生活するため、セルフマネジメント力を身に付けられる知識・技術を習得し、自己コントロールができるように働きかけていく看護の重要性を理解する。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性期・回復期の健康問題をもつ対象と家族の特徴を説明できる。</li> <li>2. 成人期にある慢性期・回復期の対象や家族に必要とされる看護問題を立案できる。</li> <li>3. 成人期にある慢性期・回復期の対象や家族に対する看護援助を科学的根拠をもとに実践できる。</li> </ol>						
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象に必要なセルフマネジメントを考慮することができる。</li> <li>2. セルフケア再獲得方法を対象や家族に提案できる。</li> <li>3. 対象に関連する社会資源を対象と家族に提案できる。</li> <li>4. 日常生活で予測される問題の解決方法を対象や家族に提案できる。</li> <li>5. 対象や家族を取り巻く倫理的問題について述べることができる。</li> </ol>						
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象や家族に行う教育方法を、文献検索を行うことができる。</li> <li>2. 様々な社会資源について、文献検索することができる。</li> <li>3. 患者や家族に必要な看護援助について、グループワークで積極的に発言することができる。</li> <li>4. 患者や家族に必要な看護援助を繰り返し練習することができる。</li> </ol>						
科目評価	定期試験(筆記) 30% シミュレーション50% 課題レポート20% 合計100%						
テキスト	ナーシンググラフィカ 成人看護学①成人看護学概論 (メディカ出版) ナーシンググラフィカ 成人看護学②健康危機状況/セルフケアの再獲得 (メディカ出版) ナーシンググラフィカ 成人看護学③セルフマネジメント (メディカ出版) ナーシンググラフィカ 成人看護学⑤リハビリテーション看護 (メディカ出版) ロイ適応看護理論の理解と実践 NANDA-I看護診断 (医学書院)						
参考文献							
回数	教育内容	教育方法 講義 演習 その他			講師	関連科目	留意事項
1	1. 成人への看護に必要な概念 ①病みの軌跡 ②セルフケア ③ストレス ④自己効力感	○		○	植田園美	からだの構造 からだの機能 全ての病を見る 基礎看護学 病理学総論 治療学総論 成人看護学概論 在宅看護論 家族看護学 地域生活支援 社会保障 病氣と共に生きていく人への看護	「成人看護学総論」「領域診断」で習得した「健康観」に関連づけて予習する。 予習においては、テキストを熟読、関連動画を視聴し理解できない箇所を明確にする。 演習では看護実践を展開していくため、演習中に追加される看護情報をもとに予習・復習を行うこと。 テキスト・講義資料を用いて学習した内容を復習し、理解を深める。  事前課題①: 「アンドロロジーについて」 (第1回目までの事前課題)  事前課題②: 「乳がんの疾患学習」 (第3回目までの事前課題) 潰瘍性  事前課題③: 「大腸がんの疾患学習」 (第6回目までの事前課題)  事前課題④: 「潰瘍性大腸炎の疾患学習」 (第9回目までの事前課題)  事前課題⑤: 「四肢切断の疾患学習」 (第12回目までの事前課題)  演習白衣使用
2	2. アンドロロジー	○		○			
3	3. 対象とその家族の生活・価値観を踏まえた看護実践 ①壮年期に乳がんを発症し化学療法を行いながら母親役割のある対象と家族への看護実践 ・化学療法を必要とする対象と家族への看護実践 ・乳がん手術後の生活指導	○		○			
4	4. 対象とその家族の生活・価値観を踏まえた看護実践 ②大腸がんを人工肛門を造設した向老期の対象と家族への看護実践 ・ストーマ管理、指導 ・社会資源の活用、指導	○		○			
5				○			
6	5. 対象とその家族の生活・価値観を踏まえた看護実践 ③青年期に潰瘍性大腸炎を発症し、再燃・寛解を繰り返す対象と家族への看護実践 ・再燃期における全身状態の観察 ・寛解期における栄養指導、生活指導	○		○			
7				○			
8				○			
9				○			
10	6. 対象とその家族の生活・価値観を踏まえた看護実践 ④四肢の切断にて機能生涯を抱えて生活していく壮年期の対象と家族への看護実践 ・生活基本行動の獲得の管理・指導 ・社会資源の活用、指導	○		○			
11				○			
12				○			
13				○			
14				○			
15	「社会復帰への看護」の学びの発表			○			
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえて、臨床に則した授業・演習を行います。						



成人看護学							
専門分野							
授業科目	健康危機状況における看護	講師	氏名	①阿部紀子 ②花田歩 ③菊池知美 ④中村眞理子 ⑤窪田園美 ⑥西岡加代子	開講年次	単位・時間	
			所属	①②③病院 ④専任教員			
			実務経験	臨床看護師			
開講年次	2年次 前期～後期					1単位 30時間	
科目のねらい	成人期は多様な価値観・生き方や社会的役割を持つ。重篤な状態にある成人期の身体的・心理的・社会的影響やその家族への影響を理解し、重症化の回避と生命危機からの早期回復のための看護実践を学ぶ。また、手術を必要とする対象とその家族への手術療法の理解や意思決定の援助を支える技術を学ぶ。						
到達目標							
知識・技術	1. 成人期にある対象や家族を対象とした急性期看護の特徴を説明できる。 2. 急性期における援助について科学的根拠をもとに実践できる。 3. 成人期にある対象や家族を対象とした周手術期看護の特徴を説明できる。 4. 術後の合併症の予防についてアセスメントし実践できる。 5. 成人各期の身体的回復過程を説明できる。 6. 対象に応じた観察項目を理解し異常の早期発見について考えることができる。						
思考・判断・表現	1. 急性期の特徴を理解し、学んだ知識・技術をもとに対象に応じた看護計画を立案できる。 2. 立案した看護計画を用いて必要な援助をシミュレーションで実践できる。 3. 実践した援助を振り返り、評価できる。 4. 急性期の治療を終え、今後の生活変化について考えることができる。						
主体的学習態度	1. グループ間で協力的な行動が取れる。 2. 手術が及ぼす身体機能回復の段階における日常生活の進め方について考えることができる。						
科目評価	①定期試験(筆記) 25% ②課題(レポート) 20% ③グループワーク(シミュレーション含む) 15% ④単元別テスト40% 合計100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 (メデイカ出版) ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状態/セルフケアの再発病 (メデイカ出版)						
参考文献	ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護① 呼吸器 (メデイカ出版) ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護② 循環器 (メデイカ出版)						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	1. 健康危機状態にある成人の理解 ①健康危機状態にある成人を理解する視点 ②健康危機状態にある成人に生じるセルフケア不足 ③健康危機状態と看護の特徴 ④健康危機状態における看護の苦悩と支え合い	○			中村眞理子		「成人看護学概論」で習得した「健康観」と関連づけて学習する。予習においては、テキストを熟読し、理解できない箇所を明確にする。テキスト・講義資料を用いて学習した内容を復習し、理解を深める。
2	2. 健康危機状態における看護の実践	○					事前課題①「急性期看護とは」(第1回目の講義内にて提出)
3	3. ①意識障害のある対象の全身視察(青年期の事例) ②急変時における全身の観察と看護の役割(向老期の事例)		○		西岡加代子		事前課題②疾患学習(大腸骨骨折・骨盤骨折)(第5回目までの事前課題)
4	4. 青年期の交通外傷(骨折)で健康危機にある対象と家族への看護(大腿骨骨折・骨盤骨折の看護援助の実践)		○		阿部紀子		事前課題③疾患学習(虚血性心疾患)(第7回目までの事前課題)
5	5. 青年期の交通外傷で健康危機(外傷)にある対象と家族の看護実践 ②術後3日目、呼吸困難を訴える場面		○		西岡加代子		
6	6. 壮年期に発症した心筋梗塞の対象と家族への看護(心筋梗塞患者への看護援助の実践)		○		菊池知美		
7	7. 壮年期に発症した虚血性心疾患の対象と家族の看護実践(心臓カテーテル検査時の看護の実践)		○		西岡加代子	基礎看護学 成人看護学概論 病理解論 臨床薬理学	事前課題④術後合併症のメカニズムとその看護(第9回目までの事前課題)
8	8. 向老期における心臓バイパス術後の対象と家族への看護実践(集中治療室での看護援助の実践)		○		花田歩	全ての病を看るからだの構造 からだの機能	
9	9. 心電図モニター管理の実践と不整脈の理解		○				
10	9. 向老期に発症した虚血性心疾患の対象と家族の看護 ①バイパス術後の気管内挿管中の気管内吸引 ②気管内挿管患者の口腔ケア		○				
11	9. 向老期に発症した虚血性心疾患の対象と家族の看護実践 ③術後当日:心臓ドレーン・胸腔ドレーン管理の場面		○		窪田園美		事前課題⑤心筋梗塞のロイの理論を活用した事例展開(第12回目までの事前課題)
12	③術後3日目:全身管理 ③術後5日目:基礎疾患が影響する経過過程		○				
13	10. 健康危機状態をまわく恐れのある疾患の看護(弁疾患・大動脈解離)		○				
14	事例の看護実践の発表(準備)			○			
15	事例の看護実践の発表			○			演習では白衣を着用すること
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえて、臨床に則した授業・演習を行います。						

成人看護学

専門分野

授業科目	人生の最期を支える看護	講師	氏名	①長野二郎 ②本田禪子 ③喜多村健 ④百俣真由美 ⑤長谷川杏子	開講年次	単位・時間		
			所属	①～④病院 ⑤専任教員				
			実務経歴	①臨床看護師 ②がん看護専門看護師 ③がん放射線療法認定看護師 ④緩和ケア認定看護師 ⑤臨床看護師				
科目のねらい	わが国における死因の第1位は癌疾患である。ここでは様々な状況の下に治療困難で、回復の見込みがないと診断された患者のうち、癌疾患により終末期を迎えている成人の看護について理解する。特に個人の権利の尊重と生命の尊厳を中心軸に、現代の癌医療の動向と現状を踏まえながら「告知」や「緩和ケア」の実際と看護の役割を理解する。							
到達目標								
知識・技術	1. 終末期にある成人の患者の特徴を説明できる。 2. 終末期のさまざまな場面のケアについて説明できる。 3. 臨死期の看護としてエンゼルケアが実施できる。 4. 緩和ケアにおける生命倫理について説明できる。 5. 遺族に対するグリーフケアについて説明できる。							
思考・判断・表現	1. 終末期の様々な場面の看護実践を考えることができる。 2. 終末期にある患者・家族の思いを感じることができる。							
主体的学習態度	1. 多様な価値観について知り、自己の死生観について考えを述べることができる。							
科目評価	①定期試験(筆記) 80% ②課題(レポート含) 20% 合計100%							
テキスト	ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア(メディカ出版)							
参考文献								
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	I. 終末期にある成人の特徴 1. 終末期とは 2. 意思決定とコミュニケーション 3. 緩和ケアと生命倫理	○			長谷川杏子	看護学へようこそ 成人看護学総論 倫理学 在宅看護総論 高齢者看護へようこそ 看護倫理	「成人看護学概論」で習得した「健康観」と関連づけて予習する。予習においては、テキストを熟読し、理解できない箇所を明確にする。 テキスト・講義資料を用いて学習した内容を復習し、理解を深める。  事前課題①「終末期看護とは」(第1回目までの事前課題)	
2	II. 家族ケア 家族の意思決定	○			長野二郎			
3	悲嘆と遺族ケア	○						
4	III. がん患者の治療と看護 1. 身体症状 ①疼痛の治療と看護 ②鎮痛薬の投与経路 2. 精神症状 3. 社会的ケア 4. スピリチュアルケア	○			本田禪子			
5	IV. 化学療法を受ける患者の看護	○						事前課題② 「化学療法・放射線療法について」 (第5回目までの事前課題)
6	V. 放射線療法を受ける患者の看護	○					喜多村健	
7	VI. 非がん疾患のケア	○			百俣真由美		事前課題③「非がん疾患について」 (第7回目までの事前課題)	
8	VII. 臨死期のケア 1. 臨死期の身体変化 2. 遺族に対するグリーフケア	○						
9	VIII. 臨死期のケア 3. エンゼルケア		○					事前課題④「エンゼルケアの手順書」 (第8回目までの事前課題)
10	「人生最期の時を支える看護」についてグループワークを行い発表			○	長谷川杏子		演習時は白衣を使用	
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。							

老年看護学

(令和6年度1年生用)

専門分野

授業科目	高齢者看護へようこそ	講師	氏名		兼本 恵美		開講年次		単位・時間	
			所属		専任教員		1年次		1単位	
			実務経験		臨床看護師		前期～後期		30時間	
科目のねらい	今後も高齢化はさらに進み、老年看護学の果たす役割はますます大きくなっている。ここでは老年期の理解、高齢者看護の基本、ヘルスプロモーション、高齢者の日常生活の実践についての考え方を中心に学ぶ。学生のみならず教員も自身で体験していない年齢の人を対象とした看護であるため高齢者の疑似体験や高齢者へのインタビューを通し、それらの理解を深め、看護を実践する基礎的能力を養う。また、地域で生活する高齢者の現状と課題を知り、社会貢献活動に繋げる。									
到達目標										
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者のQOLを理解し、QOLを向上させる関わりについて説明できる。</li> <li>2. 高齢者に関する身体的・精神的・社会的な特徴について説明できる。</li> <li>3. 高齢者看護の倫理と自己決定の支援について説明できる。</li> <li>4. 高齢者に対する虐待と実態とその背景、対応の必要性と方法を説明できる。</li> <li>5. 高齢者のヘルスプロモーションの必要性について説明できる。</li> <li>6. 高齢者を看護する専門職に必要な態度を説明できる。</li> </ol>									
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例を通し、介護予防（転倒予防、認知症予防）プログラムを考えることができる。</li> <li>2. 事例を通し、高齢者看護におけるチームアプローチを考えることができる。</li> <li>3. 高齢者とのコミュニケーションについてロールプレイで気をつけることを考えることができる。</li> <li>4. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的役割の変化による生活への影響を考えることができる。</li> </ol>									
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の生活史や地域で生活する高齢者の現状を事前に調べ、まとめることができる。</li> <li>2. 高齢者の定義や人口の高齢化、死亡率・死因について復習できる。</li> <li>3. グループワークでメンバーの意見を受け入れながら活発な意見交換をすることができる。</li> <li>4. ロールプレイの事例の役割を演じることができる。</li> </ol>									
科目評価	定期（筆記）試験80% 課題レポート20% 合計100%									
テキスト	ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害（メディカ出版）									
参考文献	系統看護学講座 老年看護学（医学書院） 高齢者白書（厚生労働統計協会）									
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項			
		講義	演習	その他						
1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活史を通じた理解</li> <li>1) 老年期の発達課題</li> <li>2) 喪失体験</li> <li>3) 高齢者の多様性</li> </ol>	○			兼本 恵美	文化人類学 医療人類学	講義前に身近な高齢者と触れ合っておきましょう。			
2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の健康</li> <li>1) 健康維持・増進の意義</li> <li>2) 健康の目標</li> <li>3) 健康状況のアセスメント</li> <li>4) 自立を妨げる要因</li> <li>5) 介護予防</li> </ol>	○				公衆衛生				
3	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者看護の基本</li> <li>1) 理論</li> <li>2) 倫理</li> </ol>	○				倫理学				
4	高齢者疑似体験		○			からだの構造 からだの機能 日常生活から見る からだ	アールーム 体操服			
5										
6	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢の変化</li> <li>1) 身体機能の生理的变化</li> <li>2) 心理・精神機能の変化</li> <li>3) 社会的機能の変化</li> </ol>	○				からだの構造 からだの機能 日常生活から見る からだ				
7		○								
8		○								
9	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者のヘルスプロモーション</li> <li>1) 介護予防</li> <li>2) 転倒予防</li> <li>3) 認知症予防</li> </ol>	○				医療安全 フィジカルアセスメント	グループワーク 介護、転倒、認知症予防について考える			
10		○								
11	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者のコミュニケーション</li> <li>1) 聴覚障害</li> <li>2) 視覚障害 等</li> </ol>	○				医療現場のコミュニケーション				
12	コミュニケーションの実践		○				ロールプレイ 課題レポート(授業後に提示します)			
13	事例検討「高齢者看護におけるチームアプローチ」	○				健康教育	グループワーク			
14	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者を取り巻く社会</li> <li>1) 高齢者の生活と家族</li> <li>2) 高齢者の生活の場</li> </ol>	○				在宅看護論 暮らしを支える				
15	1. 終末期看護	○				人生の最期を支える看護				
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。									

老年看護学

(令和6年度2年生用)

専門分野

授業科目	認知症看護の実践	講師	氏名	①基本恵美	開講年次	単位・時間	
			所属	①専任教員	2年次 前～後期	1単位 30時間	
			表務 経歴	①臨床看護師			
科目の ねらい	日本では今後も認知症高齢者の増加が見込まれている。認知症高齢者の看護は、人の尊厳や倫理的課題、本人が意思を十分に伝えられないときのコミュニケーション方法や情報の把握、自己決定など、より深い知識と理解が必要となる。認知症高齢者の思いを反映したケアを行うために、ユマニチュードやパーソン・センタード・ケアについての理解を深め、看護師として、また地域の一員として認知症ケアを実践できる基礎的能力を養う。また、認知症と関連して臨床場面で看護が困難とされているうつ病やせん妄の理解も深める。						
到達目標							
知識・技 術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症の症状とそのケアが説明できる。</li> <li>2. 認知症高齢者とのコミュニケーションの基本を理解し、ロールプレイを通じ実践することができる。</li> <li>3. 認知症高齢者とその家族への支援体制を説明できる。</li> <li>4. 認知症高齢者の人権と権利擁護を説明できる。</li> <li>5. 高齢者におけるうつ病の要因と特徴を説明できる。</li> <li>6. 高齢者におけるせん妄の特徴と要因を説明できる。</li> </ol>						
思考・判 断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例を通じ、在宅での生活も視野に入れ認知症高齢者の看護を検討することができる。</li> <li>2. 地域で生活する認知症高齢者を支えるための課題を明確にし、地域貢献活動を考えることができる。</li> <li>3. 高齢者におけるうつ病のアセスメントをし、看護を考えることができる。</li> <li>4. 高齢者におけるせん妄の予防策、アセスメント、発症時の援助を考えることができる。</li> </ol>						
主体的学 習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活する認知症高齢者に関心を持ち、様々な資料を活用しまとめることができる。</li> <li>2. 認知症の病態、症状、検査、治療について復習することができる。</li> <li>3. グループワークでメンバーの意見を受け入れながら意見交換をすることができる。</li> <li>4. ロールプレイで、事例の役割を演じることができる。</li> </ol>						
科目評価	定期(筆記) 試験80% 課題レポート10% 合計100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 高齢者看護の実践(メディカ出版)						
参考文献							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	地域で生活する認知症高齢者とその支援体制		○		基本恵美	文化人類学 高齢者看護へようこそ	地域で生活する認知症高齢者を選んでおく。
2	認知症サポーター養成講座			○		福津市健康福祉部 高齢者サービス課高齢者福祉係による講座	
3	1. パーソン・センタード・ケア 2. 認知症の症状とそのケア 1) 短期記憶障害とその援助 2) 見当惑障害とその援助 3) 失語、失行、失認とその援助 4) 実行機能障害とその援助 5) 注意障害とその援助		○	○		体の調節と神経の病を見る	グループワークを行いながら認知症の症状とそのケアについて考える。
4							
5	認知症の症状とそのケアの実践(食事介助、更衣援助、徘徊時の援助など)		○	○		療養生活援助技術Ⅰ 療養生活援助技術Ⅱ	認知症の症状に合わせた事例検討
6							
7	1. 認知症の行動・心理症状とケア 2. 認知症高齢者とのコミュニケーションの基本 1) ユマニチュード		○			体の調節と神経の病を見る 医療現場のコミュニケーション 発達心理学	
8	1. 認知症の療法的アプローチ 2. 認知症高齢者の家族への支援とサポートシステム 3. 認知症高齢者の人権と権利擁護		○			心理学 家族看護学 倫理学 看護倫理	
9	認知症高齢者の事例検討			○		社会福祉 地域生活支援 社会保障 公衆衛生 フィジカルアセスメント	事例に必要な看護、支援についてグループワークをし、発表会の準備を行う。活用できる社会資源も検討する。
10							
11	認知症高齢者の事例検討発表会			○			
12	高齢者のうつ病 1) うつ病の背景と特徴 2) 看護のポイント 高齢者のせん妄 1) せん妄を引き起こす要因とアセスメント 2) せん妄の予防 3) せん妄を発症した高齢者の援助		○			こころの病を見る	
13	高齢者のせん妄・うつ病の事例検討			○			事例に必要な看護についてグループワークをし、発表会の準備を行う。
14	高齢者のせん妄・うつ病の事例検討発表会			○			レポート課題提出(高齢者のせん妄の事例検討)
15	認知症高齢者を支える地域貢献活動を考える(まとめ)		○			文化人類学	課題レポート テーマ: 認知症高齢者を支えるために必要なこと
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						

老年看護学

専門分野

授業科目	高齢者看護の実践	講師	氏名	①島原麻衣 ②島居彩香	開講年次	単位・時間	
			所属	①専任教員 ②病院			
			資格	①臨床看護師 ②摂食嚥下障害看護認定看護師	2年次 前～後期	1単位 30時間	
科目のねらい	高齢者の生活では、加齢の変化と、さまざまな疾患や薬剤による影響、環境から起こる変化が重なって起こる。医療従事者が病院から地域へシフトしてきていることを考えると、地域全体で高齢者ケアを考え、生活機能の視点をもった看護を実践していくことが必要である。高齢者の生活を支える視点の上に、高齢者に起こりがちな身体症状や、疾患・障害をもつ高齢者に対し、生活機能の視点からどのようなケアが実践されればよいのかを考え、その人らしさを尊重するという目標志向型思考に沿って、院外課題の抽出から実践をする基礎的能力を養う。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢に伴って生じる食生活の変化に対するアセスメントと簡便的な食生活のためのセルフケア支援方法を説明できる。</li> <li>2. 加齢に伴って起こりやすい排泄の機能に関する障害のアセスメントとセルフケア支援方法を説明できる。</li> <li>3. 高齢者のオムツ交換、口腔ケア（義歯の清潔）が実施できる。</li> <li>4. 高齢者の排泄に関するアセスメントとセルフケア支援方法を説明できる。</li> <li>5. 高齢者の活動と休息の特徴と睡眠の特徴を理解し、アセスメントと支援方法を説明できる。</li> </ol>						
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の尿水、低栄養のアセスメントをし、看護を考えることができる。</li> <li>2. 尿失禁、便秘・下痢がある人のアセスメントをし、援助方法を考えることができる。</li> <li>3. 便秘状態にリネンを汚染した時のオムツ交換とリネン交換を清潔・不潔を考えたながら実施できる。</li> <li>4. 褥瘡、痛みがある人のアセスメントをし、ケアを考えることができる。</li> <li>5. 高齢者の感染予防と感染症の看護を考えることができる。</li> <li>6. 高齢者の視覚障害、聴覚障害が日常生活に与える影響を考えることができる。</li> <li>7. 事例を通して、在宅での生活を視野に入れた看護を考えることができる。</li> <li>8. 不眠に対するケアを必要としている人のアセスメントをし、援助方法を考えることができる。</li> </ol>						
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢の変化を復習することができる。</li> <li>2. 様々な資料を活用し、看護を展開することができる。</li> <li>3. オムツ交換、口腔ケアの方法、留意点を学習し実践練習することができる。</li> <li>4. グループワークでメンバーの意見を受け入れながら活発な意見交換をすることができる。</li> </ol>						
科目評価	定期（筆記）試験50% レポート課題40% 単元別試験10% 合計100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践（メディカ出版）						
参考文献	生活機能からみた老年看護過程（医学書院） NANDA-I看護診断 定義と分類（医学書院）						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	1. 高齢者看護におけるICFとは 2. 事例患者の提示	○	○		島原麻衣	体の構造 体の機能 I 日常生活からみる 身体 療養生活援助技術 II 看護過程 暮らしを支える	単元別試験：加齢に伴う身体機能の生理的変化事例患者に必要な情報をグループワークにて検討する。
2	3. 事例患者の情報収集 高齢者におけるフィジカルアセスメントのポイント		○				アーツルーム、白衣患者役教員より情報収集を行う。1回目の講義で検討した収集したい情報を正確に収集できるようにフィジカルアセスメントの復習しておくこと。
3	4. 事例患者をもとにした高齢者の循環器・呼吸器の特徴	○	○				3回目以降はロイ通体看護理論に沿って看護展開を行う。生理的様式「栄養」の行動のアセスメントをしていくこと。
4	5. 食生活を支える看護 1) 高齢者にとっての食事の意味、特徴 2) 尿水 3) 摂食嚥下障害 4) 低栄養	○			島居彩香		生理的様式「栄養」の行動のアセスメントをしていくこと。
5	6. 事例患者をもとにした高齢者の栄養状態の特徴	○	○		島原麻衣		生理的様式「排泄」の行動のアセスメントをしていくこと。
6	7. 事例患者をもとにした高齢者の排泄の特徴	○	○				生理的様式「活動と休息」の行動のアセスメントをしていくこと。
7	8. 事例患者をもとにした高齢者の活動と休息の特徴	○	○				アーツルーム、白衣オムツ交換、義歯の洗浄方法について学習しておくこと。
8	8. オムツ交換の実践 9. 口腔ケア（義歯の清潔）の実践		○				生理的様式「便秘」の行動のアセスメントをしていくこと。
9	10. 事例患者をもとにした高齢者の生体防御機能の特徴	○	○		島原麻衣		生理的様式「感覚」の行動のアセスメントをしていくこと。
10	11. 事例患者をもとにした高齢者の感覚器の特徴	○	○				生理的様式「神経学的機能」(体液・電解質)「内分泌機能」の行動のアセスメントをしていくこと。
11	12. 事例患者をもとにした高齢者の神経学的機能、体液・電解質、内分泌機能の特徴	○	○				3様式のアセスメントをしていくこと。
12	13. 事例患者をもとにした自己概念、相互依存、役割機能の特徴	○	○				アーツルーム、白衣事例患者の3週間後の状態を提示する、その関連図を作成し、介入計画を立案していくこと。
13	14. 事例患者をもとにした介入計画の実践（シミュレーション学習）		○				アーツルーム、白衣経過記録を記載し、必ず指導を受けること。
14			○				
16	まとめ	○	○				
備考	臨床(病院)での看護師の業務遂行をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						

小児看護学

専門分野

授業科目	小児の発達と看護	氏名	①田中千尋 ②梶原陽子		開講年次	1年次 後期	単位時間 2単位 45時間
		所属	①専任教員 ②病院				
		実務経験	①臨床看護師 ②小児看護専門看護師				
科目のねらい	子どもは常に成長・発達する過程にあり、一人の人間として尊重される存在である。小児看護は、新生児期から思春期までの子どもとその家族を対象に健康維持・増進を支援する。子どもの特性や社会環境による影響を理解し、子どもの健やかな成長・発達を支援する小児看護を学ぶ。						
到達目標							
知識技術	1. 子どもの身体的、認知的、社会的成長・発達の過程を説明できる。 2. 成長・発達に応じた基本的生活習慣の自立に向けた援助ができる。 3. 子どもの健康を守るうえで行われている政策や法律について説明できる。						
思考判断表現	1. 子どもの発育を評価することができる。 2. 健康障害を持つ子どもと家族に必要な看護援助を述べるができる。 3. 子どものおこりやすい健康問題に対して、予防する方法を提案できる。 4. 子どもの取り巻く環境を踏まえ、子育て支援や小児医療の課題や今後の在り方について考察できる。						
主体的学習態度	1. 子どもの人権を尊重した言動・態度ができる。 2. 主体的に学習し、自分の子どもも親、小児看護学における看護観を述べるができる。 3. 小児医療における倫理について述べるができる。						
科目評価	定期試験 (筆記) 80% (レポート) 20% 小児の問題のやり直しノート(10点)+レポート提出(10点)						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ ①小児看護学概論小児臨床看護総論 (医学書院)						
参考文献	ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 (メディカ出版) 国民衛生の動向 (厚生統計協会)						
回数	教育内容	教育方法 講義 演習 その他			講師	関連科目	留意事項
1	子どもの成長・発達の原則 子どもの形態的成長 (身長、体重、頭囲、胸囲、歯生、骨、身体のバランス)	○			田中千尋	倫理学 心理学 発達心理学 教育学 療養生活援助技術Ⅰ・Ⅱ からだの構造 からだの機能 生命に必要なエネルギー 子どもの病を見る 診療補助援助技術Ⅰ・Ⅱ 病氣と共に生きていく人の看護 健康教育 社会福祉	随時配布した問題を解き、やり直しノートを作成する。
2	子どもの運動機能の発達(原始反射、粗大運動、微細運動)	○					
3	子どもの機能的発達(解剖生理)	○					
4	子どもの心理・社会的発達 A. 認知(ピアジェ認知発達論)、情緒(ブリッジス) B. コミュニケーション、遊びと学習	○					
5	子どもの栄養と食(ミルク調乳、離乳食、食育)	○					
6	身体計測(身長、体重、頭囲、胸囲)、オムツ交換、更衣	○	○				
7	身体発育の評価(パーセントイル値、カウプ指数、ローレル指数、肥満度)、心理社会的発達検査	○					
8	睡眠、基本的生活習慣の確立	○					
9	子どもによくられる事故と安全対策 (誤飲、窒息、溺水、熱傷、頭部外傷など)	○					
10		○					
11	子どもの一次救命処置(BLS)、異物除去	○	○				
12	子どもによくみられる健康問題と健康教育 齲歯、近視、生活習慣病、スポーツ外傷の予防 問題行動の防止	○					
13	子どもの権利とインフォームドアセント 子どもの病氣と死の理解と説明	○					
14	小児予防接種と学校感染症	○					
15	健康障害が子どもと家族に与える影響	○		梶原陽子			
16	成人への移行期にある健康障害をもつ子どもと家族の看護	○					
17	子どもと家族を取り巻く法律・施策・統計 (小児保健医療福祉施策、小児慢性特定疾病医療費助成)	○					
18	被虐待児と家族への看護	○					
19	検査・処置を受ける子どもに対する看護 (バイタルサイン測定、採血、採尿、骨髄穿刺、腰椎穿刺、吸入、輸液療法)	○	○	田中千尋			
20		○	○				
21	小児科外来における子どもとその家族の看護	○	○				
22	乳幼児健診、小児予防接種時の看護	○	○				
23	障がいのある子どもと家族の看護	○					
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						

小児看護学

専門分野

授業科目	NICUの看護	講師	氏名	①福田睦美 ②田中千尋	開講年次	単位 時間
			所属	②専任教員	2年次 前期～後期	1単位 30時間
			実務経験	①助産師 ②専任教員		

科目のねらい  
近年ハイリスク新生児の増加に伴い、NICUで高度な集中治療を受ける子どもが多い。子どもの長期的な入院生活はその後の成長・発達に大きく影響を与えるため、その障がいをも最小限にするためのディベロップメンタルケアが求められる。またその子どもの家族に対する心理的な支援をするとともに、早期退院に向けた小児在宅療養への移行期の看護を学ぶ。

到達目標

- |         |   |
|---------|---|
| 知識技術    | 1. NICUに入院する子どもとその家族の特徴を説明できる。<br>2. 新生児の身体的特徴を説明でき、発育評価ができる。<br>3. 新生児の養育に必要な看護技術ができる。<br>4. 低出生体重児の特徴と治療を説明できる。<br>5. NICU(新生児集中治療室)における看護を説明できる。 |
| 思考判断表現  | 1. ハイリスク新生児のその家族のアセスメントができる。<br>2. 新生児の取り巻く環境を踏まえ、子育て支援や小児医療の課題や今後の在り方について考察できる<br>3. 子どもとその家族を支援する医療・福祉・教育の連携を理解し、多職種の中での看護師の役割を述べることができる。         |
| 主体的学習態度 | 1. 子どもの人権を尊重した言動・態度ができる。<br>2. 主体的に学習し、自分の小児看護に対する考えを述べることができる。   |

科目評価  
①定期試験(筆記) 80% ※ 指定の用紙(A4)1枚のみ持ち込み可(手書き、両面記載)  
②事例(脳性麻痺、生後三日目新生児)アセスメント 20% ※ 評価者は田中千尋

テキスト  
ナーシング・グラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護 (メディカ出版)  
ナーシング・グラフィカ 小児看護学②小児看護技術 (メディカ出版)  
ナーシング・グラフィカ 小児看護学③小児の疾患と看護 (メディカ出版)  
ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 (メディカ出版)  
ナーシング・グラフ 母性看護学③ 母性看護技術 (メディカ出版)  
国民衛生の動向 (厚生統計協会)

参考文献  
系統看護学講座 小児看護学概論小児臨床看護総論、小児臨床看護各論 (医学書院)  
系統看護学講座 母性看護学概論、母性看護学各論 (医学書院)  
病気が見える10 産科 (メディックメディア)

回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項		
		講義	演習	その他					
1	新生児の「正常」を知る① 胎児の成長過程	○			福田睦美	周産期の看護 小児の発達と看護 子どもの病を見る			
2	新生児の「正常」を知る② 分娩過程と新生児の生理概要	○							
3	新生児の「正常」を知る③ 分娩直後のルーチンケアと新生児管理の 基本	○							
4	新生児の「異常」を知る② 呼吸器疾患 (TTN/RDS/MAS)	○							
5	正常新生児の フィジカルイグザミネーション	○	○					田中千尋	第5回フィジカルイグザミ ネーションの演習はアーツ ルーム(白衣)で実施す る。
6	新生児の「異常」を知る① 早産児と低出生体重児の特徴とケア	○							
7	新生児の「異常」を知る③ 新生児黄疸、新生児低血糖	○							
8	新生児の「異常」を知る④ 先天異常 (21トリソミー/18トリソミー)	○							
9	新生児の「異常」を知る⑤ 分娩損傷と新生児仮死	○							
10	NICUにおける母乳育児支援と感染対策	○						田中千尋	脳性麻痺の事例を成長発達 アセスメントは評価対象。  沐浴はアーツルーム(白 衣)実施。新生児アセスマ ントは評価対象。
11	周産期統計と周産期医療の現状	○							
12	脳性麻痺の看護	○							
13		○							
14	正常新生児のアセスメントと沐浴		○						
15			○						
備考	臨床(病院)での助産師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。								

母性看護学

専門分野

授業科目	リプロダクティブヘルスの看護	講師	氏名	福田 睦美	開講 年次	1 年次 後期	単位・時間	1 単位 30 時間
			所属					
			実務経験	助産師				
科目の ねらい	母性看護は、性と生殖に関わる様々な問題や周産期における看護の中心となる概念を踏まえ、正常な経過をたどる妊産婦とその家族の看護について学び、自身のプレコンセプションケアについて考える。							
到達目標								
知識・技術	1. リプロダクティブヘルスに関する概念とその動向を捉え、母子保健の法律や施策を述べることができる。 2. ヒトの発生、性分化のメカニズムや生と生殖の過程を理解し、生殖器の健康問題を説明ができる。 3. 不妊症、更年期が与える身体的・心理的・社会的影響を踏まえた支援を述べるができる。							
思考・ 判断・表現	1. ウェルネスの視点でアセスメントができる。 2. 母性看護学における看護師の役割を考察できる。 3. リプロダクティブヘルスに関連する倫理的問題を考察できる。							
主体的学習 態度	1. 主体的に学習し、母性看護の特徴について述べるができる。 2. 生殖に関する人体の構造と機能を復習し、妊娠のメカニズムを説明できる。							
科目評価	定期試験（筆記）（80%） 発表（20%） 合計100%							
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学1 母性看護学概論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 母性看護学2 母性看護学概論（医学書院）							
参考文献	系統看護学講座 専門分野 成人看護学9 女性生殖器（医学書院） 病気が見える vol.10 産科（メディックメディア）							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	母性看護の基盤となる概念	○			福田 睦美	母性看護学 国際看護学 倫理学 小さな生物 高齢者看護へようこそ こころの病を看る 家族看護学 教育学	講義予定の内容は、テキストを熟読して講義に臨むこと。	
2	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	○						
3	母性看護の対象理解	○						
4	女性のライフステージ各期における看護①	○						
5	女性のライフステージ各期における看護②	○						
6	リプロダクティブヘルスケア①	○						
7	リプロダクティブヘルスケア②	○						
8	リプロダクティブに関する課題 グループワーク	○		○				
9	リプロダクティブに関する課題 グループワーク発表	○		○				
10	妊娠期の身体的特性	○						
11	妊娠期の心理・社会的特性	○						
12	妊娠と胎児のアセスメント①	○						
13	妊婦と胎児のアセスメント②	○						
14	妊婦と家族の看護	○						
15	まとめ	○						
備考	臨床(病院)での助産師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。							



母性看護学

専門分野

授業科目	周産期の看護	講師	氏名	①内藤 直美 ②松本信一郎 ③安武夕子	開講 年次	単位・時間		
			所属	①③専任教員 ②病院			2年次 前～後期	2単位 45時間
			実務経験	①③臨床看護師 ②医師				
科目のねらい	マタニティサイクルにある母子やその家族を含めた看護の展開、ハイリスク妊・産・褥婦の看護における知識と技術の修得を目指す。							
到達目標								
知識・技術	1. 周産期の特徴を述べることができる。 2. 産・褥婦に必要な技術を実践できる。							
思考・判断・表現	1. 周産期の特徴を踏まえて、周産期看護を展開することができる。 2. ハイリスク妊産婦に対する予防的支援を理解できる。							
主体的学習態度	1. 主体的に学習し、講義、演習に参加することができる。							
科目評価	定期試験(筆記) (100%)							
テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 (メディカ出版) デジタルナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 (メディカ出版) デジタルナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 (メディカ出版) 病気が見える vol.10 産科 (メディックメディア)							
参考文献	系統看護学講座 専門分野 母性看護学1 母性看護学概論 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学9 女性生殖器 (医学書院) 統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 (医学書院)							
回数	教育内容	教育方法				関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他	講師			
1	分娩の要素	○			内藤 直美	リプロダクティブヘルスと看護 こころをみる小児の発達と看護 NICUの看護 こどもの病をみる 周手術期の看護	講義前に課題を提示します。事前に学習をした上で講義に参加して下さい。	
2	分娩の経過	○		○				
3	産婦・胎児、家族のアセスメント	○		○				
4	産婦と家族の看護	○		○				
5	産婦の看護に関わる技術	○	○	○				
6	分娩期の看護	○		○				
7	産褥期の身体的・心理的变化	○		○				
8	褥婦のアセスメント	○		○				
9	褥婦と家族の看護	○		○				
10	施設退院後の看護	○		○				
11	褥婦の看護に関わる技術	○	○	○				
12	ハイリスク妊娠	○			松本信一郎	正常に経過する周産期を理解した上で異常を理解する。		
13	妊娠期の感染症と妊娠疾患	○						
14	産道、娩出力の異常	○						
15	胎児の異常による分娩障害	○						
16	胎児の付属物の異常	○						
17	産科処置と産科手術	○						
18	分娩時異常出血	○						
19～22	周産期における看護の展開 妊娠期・分娩期・産褥期	○		○	安武夕子	事例を用いて看護展開をする。		
		○		○				
		○		○				
23	まとめ	○						
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。							

精神看護学

専門分野

授業科目	こころの働きと精神保健	講師	氏名	戸田 真理	開講 年次	1 年次 後期	単位・時間	1単位 30時間
			所属	専任教員	1 年次 後期	1単位 30時間		
			実務経験	臨床看護師				
科目のねらい	精神看護の基本となる全ての人間を対象として健康な生き方とは何かについて考える。精神保健上の問題が生活に与える影響を理解し、基本的な関わり方を学習する。また精神保健医療に関わる歴史的背景、人権擁護、倫理について学習し、看護師としての専門的な関わりを理解する。							
到達目標								
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>こころの健康とは何かを理解し、ライフサイクル各期におけるメンタルヘルスについて説明できる。</li> <li>こころの健康に及ぼす要因と対処法について理解し、説明できる。</li> <li>精神医療の歴史と課題を理解し、そこからつくられた法制度と経済施策の関係を述べる事が出来る。</li> <li>ノーマライゼーションの理念と障害者の生活について関係づけることができる。</li> <li>施設見学で得た知識をレポートにまとめ、プレゼンテーションできる。</li> </ol>							
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>ライフサイクル各期におけるメンタルヘルスの特徴を自己のライフサイクルと照らし合わせ、自己の考えをまとめることができる。</li> <li>現代の精神医療を踏まえ、精神医療の課題を調べる事ができる。</li> <li>精神障害者福祉の歴史を理解し、障害者の人権擁護について意見交換ができる。</li> <li>障害の有無に関わらず、精神的健康を維持するために必要なことを調べる事ができる。</li> </ol>							
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>精神看護における倫理や人権擁護について、自己に置き換えて考え説明できる。</li> <li>ワーク中は協力的に行動し、積極的に参加する。</li> </ol>							
科目評価	定期(筆記)試験 50% 課題レポート及びディベート評価20% 単元別テスト30% 合計100%							
テキスト	系統別看護学講座 別巻 精神保健福祉 (医学書院)							
参考文献	新体系看護学全書 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 公衆衛生学 (メヂカルフレンド社) 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度3							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	人間のこころと防衛機制	○			戸田 真理	心理学 発達心理学	ライフサイクルについてはエリクソンの発達段階について事前に学習しておくこと  1. 2次の単元テスト	
2	2) ライフサイクル各期におけるメンタルヘルスの特徴とその影響	○						
3	精神保健の定義	○	○					
4	欧米と日本の精神医療の変遷 精神障害者に関する法律	○	○			社会福祉 社会保障 地域生活支援 公衆衛生	3～5次の単元テスト	
5	日本の精神医療の現状と課題	○						
6	学校における精神保健	○						
7	職場における精神保健	○						
8	地域における生活と精神保健(災害含む)	○					6. 7次までの単元テスト	
9	看護の倫理と人権擁護・障害者の権利と処遇 地域における障害者の権利擁護	○	○			倫理学	精神障害者の人権についてワークし、ディベートする	
10								
11	看護師のメンタルヘルス	○	○					理論を基に事例をアセスメントする  病院の特徴を理解する  ワークを行い発表し学びを共有する
12	ペロウの対人関係論	○	○					
13	精神科病院の見学	○		○				
14	施設見学のまとめを発表			○				
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。							

精神看護学

専門分野

授業科目	精神医療を支える看護	講師	氏名	開講 年次	単位・時間		
			①戸田 真理 ②黒木 将司 ③入江 正光 ④戸田 耕一			2年次 前～後期	2単位 45時間
			所属				
実務経歴	①②④臨床看護師 ③精神看護専門看護師						
科目のねらい	国の施策である「入院から地域へ」を基に精神障害者が地域で暮らすためのシステムや支援の方法について学ぶことは重要である。また依存症や発達障害者などの患者が増加しており、精神科医療を支える看護を学ぶ。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>再構成の目的を理解し再構成を記述できる。</li> <li>看護師-患者関係における治療的関わりについて説明できる。</li> <li>精神医療でおこなわれる治療と看護の実践について理解し、説明できる。</li> <li>精神症状が生活にどのように影響するか、事例をもとに看護援助を検討し実践できる。</li> <li>身体拘束の目的方法を理解し、安全に配慮しながら装着できる。</li> <li>精神疾患を抱える家族の苦悩を理解し、家族への援助を立案できる。</li> <li>精神障がい者の入院から社会復帰するまでに関わる多職種の仕事から看護師の役割について考えることができる。</li> <li>精神障がい者の入院から社会復帰するまでに関わる多職種の役割から看護師の役割について知り、学生間で意見交換できる。</li> </ol>						
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>精神科病院の見学及び身体拘束を実践することで、精神看護に対する権利擁護とは何かを探索できる。</li> <li>再構成を記述することで気づいた自己の傾向を分析できる。</li> <li>地域で暮らす障がい者の実情を知り、支える援助とは何かを探索できる。</li> <li>他のグループの看護場面を見学し、自己の援助と比較検討し、分析、修正できる。</li> </ol>						
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>自己の感情を素直に表現できる。</li> <li>ロールプレイを積極的に参加できる。</li> <li>対象のストレスをエンパワーメントするための看護方法を検討できる。</li> <li>既習の知識を活用し、常に学習に臨んでいる。</li> </ol>						
科目評価	定期（筆記）試験60% ロールプレイ20% 関連図およびレポート20% 合計100%						
テキスト	ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 (メディカ出版) ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 (メディカ出版)						
参考文献	ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障④ 社会福祉と社会保障 (メディカ出版) 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 (医学書院) 系統別看護学講座 基礎分野 人間関係論 (医学書院)						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	自己理解・他者理解	○			戸田真理	医療現場のコミュニケーション	自己の感情を素直に表現し、強みを知る
2	専門的人間関係の構築 (治療的コミュニケーション)	○	○				
3	再構成	○	○				
4	治療的かかわりとは	○			黒木将司		治療と病態をふまえて、生活障害や生きづらさとの関連を理解する。
5	服薬治療にかかわる援助	○					
6	入院する精神障害者が持つ特徴	○					
7	身体拘束の看護		○		黒木将司		体障に更衣しアーツルームで身体拘束の演習
8	治療の場としての精神科病棟 治療的環境を整える	○					
9	事例をもとに退院支援	○					
10		○					
11	地域生活を支える社会資源の活用	○			入江正光	社会 保障 社会福祉 公衆衛生 看護過程 看護理論の基礎 多言語コミュニケーション	障害者総合支援法を事前に学習しておくこと。
12	地域生活 (移行) 支援の実践	○					
13	リエゾン精神看護	○					
14	依存症の看護	○			戸田耕一	医療現場のコミュニケーション 対象に合わせたフィジカルアセスメント 病氣と共に生きていく人への看護	精神障害者を抱える家族の苦悩と生活の実際を事前に学習しグループ討議をおこなう
15	精神疾患を抱える患者とその家族の看護	○					
16	精神科での援助におけるアセスメントの視点	○	○		戸田真理		「こころの病をみる」で学んだ知識を活用し、アセスメントを実施する。アセスメント実施後は、必要な看護目標と援助計画の立案を記載する。
17	精神症状別看護1 日常生活に影響を及ぼす症状と看護 (幻聴、妄想、不安、睡眠障害、抑うつ)		○				
18	気分障害患者のアセスメントと看護		○				
19	統合失調症患者のアセスメントと看護		○				
20	統合失調症患者のアセスメントと看護		○				
21	精神障害者を演じる		○				
22	ロールプレイ実施		○				
23	ロールプレイの評価と振り返り	○	○		それぞれの役割を通してロールプレイを実施する。当日欠席の場合は、評価できない。		
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						

看護の統合と実践

専門分野

授業科目	医療安全	講師	氏名	開講年次	単位・時間			
			①山下朝乃 ②西岡加代子					
			所属			①病院 医療安全対策室 ②専任教員		
実務経験	①②臨床看護師							
科目のねらい	医療事故は起こしてはいけないことであるが、日常的に発生する可能性があることを十分に認識することが重要である。人はなぜ医療事故が起こすのか、「ヒトは誰でも間違える」人間の特性を理解する。また、事故防止に向けて組織的に取り組む安全管理の考え方を学び、医療事故を防ぐための具体的方法について学ぶ。							
到達目標								
知識・技術	1. 医療安全における基本的知識を説明できる。 2. 医療現場における危険の予知と回避、事故防止の安全対策の方法を説明できる。 3. 安全確保の方法について説明できる。 4. 組織（国・医療法・看護職能団体）で取り組む安全管理体制を説明できる。 5. 医療安全における看護師の責務と役割を説明できる。							
思考・判断・表現	1. 安全管理への心構えと対応について考えることができる。 2. 医療安全の課題を考えることができる。							
主体的学習態度	1. 医療事故の発生要因を分析し、防止対策についてグループワークで発言することができる。 2. 近年の医療安全の動向についてをニュース・SNSや文献で調べることができる。							
科目評価	定期試験（筆記）70% ワーク・レポート 30% 合計100%							
テキスト	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全（メディアカ出版）							
参考文献	パワーアップ問題演習 基礎看護学（サイオ出版） 系統別看護学講座 医療安全（医学書院） 医療安全ワークブック（医学書院）							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	医療安全を学ぶ意義 1) 医療安全を学ぶ重要性 2) 医療安全の取り組み	○			山下朝乃	各専門看護学 論理学Ⅰ（論理的思考） 倫理学 心理学 医療現場のコミュニケーション	事前課題 ①基礎看護学実習Ⅰを想起し、医療施設で起こりうる医療事故についてのレポート ②医療施設での医療事故に関する時事問題をレポート（提出日時については掲示）	
2	医療安全の基本概念 1) 医療事故の定義 2) 看護師及び看護業務の法的な規定	○					事後学習 講義資料をもとに学習内容を復習する。	
3	医療安全施策と医療の質の評価 1) 医療事故と事故防止の考え方 2) 組織的な安全管理体制への取り組みと医療安全対策	○						
4	事故発生のメカニズムと防止対策 1) 事故の構造、事故防止の考え方 2) 人間の行動（人間の特性） 3) ヒューマンエラーのメカニズム 4) 事故分析 5) 事故後の対応	○						
5	安全確保と倫理 1) 身体拘束とは 2) 身体拘束となる具体的な行為	○	○					アールームで演習 体操服準備 1年次に履修したを事前に復習しておくこと。
6	看護における安全対策 1) 「療養上の世話」の事故防止 2) 「診療の補助」の事故防止 3) その他（業務領域をこえて共通する事故防止） 口頭指示、患者誤認、コミュニケーションエラー	○					西岡加代子	
7	看護学生の実習と安全 1) 実習中の事故防止 2) 事故発生時の学生の対応	○						
8	事例紹介・討議（グループワーク） 1) RYTトレーニング危険予知トレーニング	○	○			事例をもとにグループワーク・発表する。		
9		○	○					
10		○	○					
備考	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。							

看護の統合と実践

専門分野

授業科目	国際看護	講師	氏名	開講年次	単位・時間		
			①橋本香澄 ②一枝あゆみ ③小池正美 ④岡野大輔				
			所属				
			①病院 ②病院 ④専任教員	3年次 前期	1単位 30時間		
			①臨床看護師 ②臨床看護師、JICA隊員 ④臨床看護師				
科目のねらい	国際看護とは、世界の人々の生活や環境を知り、国際保健に関わる国際機関の役割と機能、社会的・経済的な諸問題に焦点をあて、その多様性を学ぶ。また、グローバルな環境課題や問題が及ぼす人々の健康への影響と国際協力分野における看護実践に必要な概念と国際的視点を養う。						
到達目標							
知識・技術	1. 国際看護の概念・目的が説明できる。 2. 国際看護活動について説明できる。 3. 国際看護における看護師の役割を考えることができる。						
思考・判断・表現	1. 文化の違いを踏まえた看護を考えることができる。 2. 国際看護活動を基に、多種多様な視点から国際看護における看護師の役割について自分の意見を述べるることができる。						
主体的学習態度	1. グループディスカッションで自ら積極的に意見交換ができる。 2. 看護学生として知識を活用し、国際看護について探求できる。						
科目評価	単元別試験70%、レポート評価10%、GW評価20% 合計100%						
テキスト	系統看護学講座 災害看護学・国際看護学（医学書院）						
参考文献	開発教育実践ハンドブック、SDGs学習のつくりかた、「ひょうたん島問題」多文化共生社会ニッポンの学習課題						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	国際看護とは	○			橋本香澄	文化人類学 医療人類学 看護学へようこそ 災害看護 社会保障 社会福祉 ICTの基礎 多言語コミュニケーション 医療コミュニケーション	国際看護について調べて、講義に臨む。
2	国際社会における国際看護活動と課題	○					
3	1) 国際社会 2) 国際協力	○					
4	海外の医療施設と実際	○			一 枝 あ ゆ み		事前課題① 海外の医療施設と看護の実際（制度の違い）調べて講義に臨む。
5	国際看護師と看護ボランティア	○	○	○			①課題レポート 国際看護師と看護ボランティアについて調べ講義に臨む。 ベネズエラでの看護ボランティアについて講義後レポート用紙にまとめて提出。
6					小 池 正 美		単元別試験
7	国際看護学に関する基礎知識	○					
8	1) 世界の健康問題の現状 2) グローバルヘルス 3) 国際協力のしくみ	○					
9					一 枝 あ ゆ み		単元別試験
10	国際看護に関わる看護	○	○				
11	1) 開発協力と看護 2) 国際救護と看護	○	○				
12	海外の文化の違いと、対象からみた医療・看護の違い	○	○	○	岡 野 大 輔		事前課題② 海外の文化の違いについて調べて講義に臨む 宗像地域国際交流連絡協議会などの交流センターでzoomを使用し、「海外の文化について」外国人と意見交換し、文化の違いについて調べGWで活用する。
13	1) 多様な文化や価値観 2) 文化を考慮した看護	○	○	○			
14	21世紀の国際協力の課題	○				単元別試験	
15	国際看護学まとめ	○	○			単元別試験 国際看護としての看護観について考える。講義後レポート用紙にまとめて提出。	
備考	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						

看護の統合と実践

専門分野

授業科目	災害看護	氏名	①中島真祐美 ②岡野大輔		開講年次	3年次 後期	単位・時間 1単位 30時間
		所属	①病院 ②専任教員				
		実務経験	①臨床看護師、日本DMAT ②臨床看護師、元日本DMAT				
科目のねらい	日本は自然災害が多い国であり、災害によって私たちの生活に大きな影響を及ぼしている。災害発生により救急システムは崩壊し、多数の傷病者が発生する。病院機能、医療資材の不足、医療従事者の不足の為、十分な治療が不可能となる。そのような状況下で「1人でも多くの人を救う」ため、治療の優先順位をつけるのがトリアージである。災害現場では絶対的なものではなく、現場に応じた臨機応変、基本的な災害に関する知識、学校がある福津市の特徴を理解することが地域からも求められている。この単元では、今までで学習した基礎看護学等の基本的な技術を活用し、被災者の健康状態をアセスメントする能力、柔軟な対応、災害現場をイメージしながら災害看護の活動の意義を実感する。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害の定義と種類を理解し、述べることができる。</li> <li>2. 災害情報の種類と内容を理解し、説明できる。</li> <li>3. 基礎看護技術の知識を使用し、災害看護に使える方法を選択できる。</li> <li>4. 災害発生時の医療提供体制について説明できる。</li> <li>5. 災害時の治療の優先順位の必要性を説明できる。</li> <li>6. 講義、自己学習を活かし看護活動を実施することができる。</li> </ol>						
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 校外学習で学んだ知識を使って、共有できるような発表ができる。</li> <li>2. 地域の防災対策や方法を知り、看護師として必要なことを考え課題を明確にできる。</li> <li>3. トリアージを実施し、治療の優先順位を考えることができる</li> <li>4. 災害時をイメージし、演習で看護活動として行動できる。</li> </ol>						
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害看護について興味・関心を高めることができる。</li> <li>2. 地域の防災マップや防災対策について積極的に調べる行動が出来る。</li> <li>3. グループ間で協力的な行動がとれる。グループワーク、演習で自分の意見を積極的に述べ、ディスカッションすることができる。</li> <li>4. 教科書を用いた基礎的知識、講義での知識を活用し自己学習し演習に参加することができる。</li> </ol>						
科目評価	定期試験（筆記）（50%） 校外学習活動と発表資料（30%） 事前課題（20%） 合計100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践④ 災害看護（メディア出版）						
参考文献							
回数	教育内容	教育方法 講義 演習 その他			講師	関連科目	留意事項
1	オリエンテーション災害の種類と定義 (災害対策基本法・WHO・IFRC)	○			中島真祐美	医療人類学 文化人類学 公衆衛生 診療補助援助技術Ⅰ・Ⅱ 療養生活援助技術Ⅰ・Ⅱ 地域と暮らし 医療安全 健康教育	事前課題 ①災害対策基本法・WHO・IFRCについて事前に学習しておく ②CSCATTTについて事前に学習しておく
2	CSACATTTとは 災害看護とは 災害支援ナース	○					事前課題 ①START法、PAT法について ②TARXXXの病態、症状、治療処置についてまとめる
3	災害情報の種類と内容 トリアージとは トリアージと法律上の問題	○			演習を行うため動きやすい服装で行う (体換服)		
4	事例 シミュレーション トリアージ	○	○				
5			○				
6	応急処置(実践) 移送・搬送		○				グループで実際に場所を確認し、福津の防災マップ・水光会病院・学校の防災対策を調べてまとめ発表する
7			○				
8	発表		○				
9	状況予測型訓練		○				ワーク
10	状況予測型訓練		○				ワーク
11	被災者の生活の場で起こりうる問題		○				ワーク
12	被災者の生活の場で起こりうる問題		○				ワーク
13	被災地へ派遣される際に持参する物		○				ワーク
14	災害時の医療体制		○				ワーク
15	災害時に活動する団体：DMAT等	○		○			
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						

看護の統合と実践

専門分野

授業科目	看護マネジメント	講師	氏名	開講年次	単位・時間		
			①前田寛美 ②吉川朱美 ③荒木美和子 ④佐藤万希子 ⑤眞武未知 ⑥清原いずみ ⑦藤嶋早百合				
			所属	①専任教員 ②～⑦病院	3年次 後期	1単位 30時間	
			実務経験	①～⑦臨床看護師			
科目の おらい	看護マネジメントでは、変化続けている保健・医療・福祉のなかで、社会のニーズに応える看護を提供するために、必要な知識を修得する。看護チームにおいてリーダーシップ能力およびコーディネート能力を発揮しながら、看護の対象者のニーズに応じた看護ケアのマネジメントを実践するための基礎的知識、ならびに看護サービスを提供する専門職として必要な看護マネジメントの基礎的知識を修得する。キャリア開発について学び、自己のキャリア形成について考えることができる。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護を提供するために必要な継続ケア（組織・体制）を説明することができる。</li> <li>2. 看護サービス、看護管理（マネジメントサイクル）について説明することができる。</li> <li>3. 看護に関連する法律や医療制度を説明することができる。</li> <li>4. 4つの材「人材」「人財」「人質」「人罪」について説明できる。</li> </ol>						
思考・ 判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理におけるマネジメントとしてのチーム医療を考えることができる。</li> <li>2. 看護サービスを経営的側面、労働的側面から考えることができる。</li> <li>3. 多職種連携・協働において看護管理に必要なことを考えることができる。</li> <li>4. 看護管理のあるべき姿を考えることができる。</li> </ol>						
主体的学習 態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループワーク、演習で自分の意見を述べるができる。</li> <li>2. 組織の一員として意識しながら学習に取り組むことができる。</li> </ol>						
科目評価	定期試験（筆記）：50% 事前課題：50% 合計100%						
テキスト	系統看護学講座 看護の統合と実践① 看護管理（医学書院）						
参考文献	学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門（日本看護協会出版会）						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	1. 看護とマネジメント 1) 看護管理学とは 2) 看護におけるマネジメント 3) 看護におけるマネジメントの考え方	○			吉川朱美	GW マネジメントに必要な資源について身近な活動を例にあげて考えよう。	
2	2. 看護ケアのマネジメント 1) 看護ケアのマネジメントと看護職の昨日 2) 患者の権利の尊重	○					
3	3) 安全管理 (1) 安全管理のしくみ (2) 医療事故対策 ・医療事故とは	○			荒木美和子	事前課題 看護ケアマネジメントとは何か調べよう  事前課題：（想起学習） ①医療事故の定義を述べ、医療事故と医療過誤の違いについて ②インシデントとアクシデントの違いを述べ、ハインリッヒの法則について ③スタンダードプリコーションの基本概念を説明し、基本対策を5項目挙げなさい。	
4	(2) 医療事故対策 ①院内感染対策 ②災害の予防と対応	○					
5	4) チーム医療 (1) チーム医療とは (2) チーム医療に必要な機能 (3) 責任と役割 (4) 多職種連携・協働	○			佐藤万希子	GW： ①1日の病棟業務の流れを組み立ててみよう。 ②情報管理の仕方について考えよう。	
6	5) 看護業務の実践 (1) 看護業務 (2) 看護基準と手順 (3) 情報の活用 (4) 日常業務のマネジメント	○					
7	3. 看護職のキャリアマネジメント 1) キャリアとは 2) ライフサイクルとキャリア 3) ワーク・ライフ・バランス 4) キャリア開発とは 5) キャリア開発ラダーの考え方	○			眞武未知	倫理学 社会福祉 社会保障 公衆衛生 看護学へようこそ 災害看護	
8	4. 看護サービスのマネジメント 1) 看護サービスのマネジメントとは 2) 組織目的達成のマネジメント	○					
9	3) 看護サービス提供のしくみづくり 4) 人材マネジメント（労働環境も含む）	○			清原いずみ	事前学習 現時点であなたが目指している看護職のイメージを描き、自己のキャリアを展望してみましょう	
10	5) 施設・設備環境のマネジメント 6) 物品のマネジメント	○					
11	7) 情報のマネジメント 8) 組織におけるリスクマネジメント 9) サービスの評価	○			藤嶋早百合	GW：マネジメントに必要な資源について身近な活動を例にあげて考えよう。 事前課題：「個人情報の保護に関する八原則」について調べよう。GW：実習で体験した個人情報保護に関する注意事項を考えよう	
12	5. 看護職の法的責任 1) 看護の定義 2) 看護職に関わる法的責任 3) 看護業務の法的範囲 4) 看護師に求められる判断 5) 看護師に必要とされる注意義務	○					
13	6. 看護者の基本的責務 1) 倫理とは 2) 法と倫理 3) 看護に倫理が必要なのか 4) 看護者の基本的責務 5) 看護の「責任を果たすために求められる努力」とは	○			前田寛美	事前学習： 看護職に関わる3つの法的責任について GW：看護職はどんな法的責任にとられるか考えよう  事前課題（想起） 6つある倫理の原則に基本的な意味について GW：看護の責任を果たすために求められる努力について考えよう	
14	7. 日本の医療制度と病院経営 1) 医療提供体制 2) 医療保険制度 3) 診療報酬制度	○					
15	演習 1. キャリアプランを考えよう 2. 自分自身の体験するストレスと対処法を検討してみよう 3. グループ活動を振り返り、自分のリーダーシップスタイルを考えてみましょう	○				演習を通して自己を見つめ直す。看護を行う上で必要な態度を考える。	
備考	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						

領域横断

専門分野

授業科目	薬物療法の看護	講師	氏名	①西岡加代子 ②桑原麻衣	開講年次	単位・時間	
			所属	①②専任教員			
			実務経験	①②臨床看護師	1年次 後期	1単位 30時間	
科目のねらい	看護師は与薬の実践者として患者に直接薬を与え、その効果や副作用を最も身近で観察する立場にある。また対象の疾病の管理・コントロールを行う上で薬物治療は欠かせない。本科目では、各専門看護学で学ぶ薬物療法の看護に繋がるように全ての対象に共通する薬物療法の看護とその役割を学ぶ。						
到達目標							
知識・技術	1. 臨床薬理における基礎的知識を想起し、各種薬物の作用・副作用、薬物動態のしくみを述べることができる。 2. 薬を投与される対象の不安や悩みについて知り、述べるができる。 3. 薬物療法における看護師の役割を列挙できる。 4. 薬物療法中の援助の必要性について説明することができる。 5. 薬を自己調整する対象に対する援助を述べるができる。 6. 各種場面における服薬時の看護を述べるができる。						
思考・判断・表現	1. 薬物療法における様々な対象を想定し、対象に応じた援助を考えることができる。 2. 対象の薬物療法における不安や悩みに気づき、説明することができる。 3. 薬物療法に関わる医師との連携の図り方や、対象にとってより良い関わりを考えることができる。 4. 対象に合わせた服薬指導の重要性に気づく。						
主体的学習態度	1. 対象の安全、安楽に配慮する行動をとることができる。 2. 臨床薬理学の講義資料、テキストを使って調べ学習ができる。 3. グループワークやシミュレーション時にグループで協同的態度を示すことができる。 4. 各種の「病を見る」科目と関連させながら、学習を進めることができる。						
科目評価	定期試験(筆記) : 50% シミュレーション及び事例ワーク : 50% 合計100%						
テキスト	系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進③ 薬理学 (医学書院) 他各専門科目のテキスト						
参考文献							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	1. 薬物療法と看護の基礎的知識 1) 薬理作用と副作用 2) 薬物動態(発達段階別) 3) 薬物治療と管理 4) 薬剤管理	○			西岡加代子  桑原麻衣	からだの構造 からだの機能 呼吸・循環・血液の病を見る 消化及び排泄の病を見る 体の調節と神経の病を見る 運動することと感覚の病を見る 体を守ることの病を見る 子どもの病を見る こころの病を見る 臨床薬理学 病理学総論 各専門看護学 医療安全	臨床薬理学の基礎的知識を基に復習テストを行う。また臨床薬理学の講義資料を持参する。また、糖尿病の病態、症状、検査、治療、看護について学習しておくこと。  事例を使い、対象別に発熱と便秘の薬剤使用時にどのような作用副作用があり観察を行っているのか、看護に必要な臨床判断能力を身に付けるためにワークする。そのためからだの構造・機能、病理学総論と臨床薬理学の復習を充分に行っておくこと。  インスリン注射の手技について学習しておく。  糖尿病の病態、症状、検査、治療、看護および各発達段階の特徴の確認テストを実施する。  統合失調症の確認テストを実施する。  解熱鎮痛薬の作用・副作用の確認テストを実施する。  抗精神病薬の作用・副作用の確認テストを実施する。
2		○					
3	2. 対象の状況に応じた薬物療法と看護ライフサイクルに応じた場面でのグループワーク 1) 発熱時の看護 2) 便秘時の看護			○			
4							
5							
6	3. シミュレーション教育とは 4. コンプライアンス、アドヒアランス、コンコダランスとは 5. インスリン注射の練習	○	○				
7	6. 服薬アドヒアランスを高めるための服薬指導 1) インスリン自己注射を中断した成人のシミュレーション学習	○	○				
8		○	○				
9	2) インスリン自己注射を中断した高齢者のシミュレーション学習	○	○				
10	3) インスリン自己注射を中断した児童のシミュレーション学習	○	○				
11	4) インスリン自己注射を中断した妊婦のシミュレーション学習	○	○				
12	5) 抗精神病薬を自己中断した精神障がい者のシミュレーション	○	○				
13	7. 解熱鎮痛薬と薬時のシミュレーション(成人期・高齢者・患児)	○	○				
14	8. 抗精神病薬と薬時のシミュレーション学習	○	○				
15	9. 薬物療法における看護師の役割とは	○	○				
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						



領域横断科目

専任分野

授業科目	内容	講師		開講 年次	単位・時間	
		氏名	所属			
病気と共に生きていく人への看護		①不動幸美記	①④⑤専任教員	2年次 前期	1単位 30時間	
		②戸田真澄 ③川口眞一郎 ④内藤成美 ⑤岡野大樹				
科目の ねらい	私たちは、現在3次予防の視点をもとに、社会生活を営み、1人1人が常に高い健康志向を掲げている。このような背景を踏まえ、病者と共に生きていくあらゆる発達段階の対象の身体的・精神的・社会的特徴を学び、回復期に必要な看護を実践する基礎的能力を養う。また、身体の回復は明らかであるが、何らかの機能障害が後遺症として残るリスクのある回復期に必要な看護を実践する基礎的能力を養う。					
到達目標						
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性疾患の種類および経過について説明できる。</li> <li>2. 慢性疾患をもつ対象、回復期における対象の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。</li> <li>3. 慢性疾患をもつ対象、回復期における対象にかかわる要因について説明できる。</li> <li>4. 慢性疾患をもつ対象、回復期における対象の看護の特徴とその支援について説明できる。</li> <li>5. 慢性疾患の予防や発症の予防について説明できる。</li> <li>6. 慢性疾患を有する人に行われている治療の特徴について説明できる。</li> <li>7. リハビリテーション系疾患の予防と回復について説明できる。</li> </ol>					
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例をもとにあらゆる発達段階における慢性疾患をもつ対象の支援、援助を検討し、ロールプレイにて看護を実践することができる。</li> <li>2. 事例をもとにあらゆる発達段階における回復期における対象の支援、援助を検討することができる。</li> </ol>					
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各年次階層、項目の理解を促すための学習・復習をすることができる。</li> <li>2. ロールプレイにて実際の役割を演じることができる。</li> </ol>					
評価方法	①定期試験(筆記)20% ②グループワーク・シミュレーション40% ③事前試験20% ④單元別テスト20% 合計100%					
テキスト	ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 慢性疾患/セルフケアの看護 (メヂカ出版) ナーシング・グラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント (メヂカ出版) ナーシング・グラフィカ 看護看護学② 慢性疾患看護 (メヂカ出版) 成人看護学看護看護学 病者と共に生きる人を変える看護実践 (南山堂)					
参考文献						
回数	授業内容	教育方法		講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他		
1	1. 慢性疾患とは 1) 慢性疾患の特徴 2) 慢性疾患を有する人を取りまく慢性疾患の看護 3) 慢性疾患を有する人を取りまく慢性疾患の看護 4) 慢性疾患を有する人に対する看護者の役割 5) 慢性疾患を有する人にかかわる看護者とチーム医療 6) 慢性疾患看護の今後の展望	○			下村幸美記	
2	慢性疾患を有する人とその家族の関わり 1) 慢性疾患を有する人の特徴 2) 病状および障害を受け入れるプロセス 3) 慢性疾患および治療が及ぼす社会生活への影響 4) 慢性疾患を有する人を変える家族の特徴	○				
3	治療受け入れが困難な老年期の事例 (松原氏) の指導の実際	○			岡野大樹	事前課題① 治療受け入れが困難な老年期の事例 (松原氏) について必要な支援・援助を検討したものをロールプレイで実践する。
4	副作用が強く症状セルフマネジメントが必要な成人期の事例 (熊手野氏) の指導の実際	○				事前課題② 副作用が強く症状セルフマネジメントが必要な成人期の事例 (熊手野氏) について必要な支援・援助を検討したものをロールプレイで実践する。
5	セルフモニタリングの教育が必要な精神疾患をもつ対象の事例 (高橋氏) の指導の実際	○			戸田真澄	事前課題③ セルフモニタリングの教育が必要な精神疾患をもつ対象の事例 (高橋氏) について必要な支援・援助を検討したものをロールプレイで実践する。
6	治療に関する意思決定に対する支援が必要な成人期の事例 (藤澤氏) の指導の実際	○				事前課題④ 治療に関する意思決定に対する支援が必要な成人期の事例 (藤澤氏) について必要な支援・援助を検討したものをロールプレイで実践する。
7	役割変更しなければならず、家族を含めた支援が必要な成人期の事例 (人工透析の導入) の指導の実際	○			岡野大樹	事前課題⑤ 役割変更しなければならず、家族を含めた支援が必要な成人期の事例 (人工透析の導入) について必要な支援・援助を検討したものをロールプレイで実践する。
8	急性増悪を繰り返す、教育的支援が必要な小児期の事例 (ネフローゼ症候群) の指導の実際	○				事前課題⑥ 急性増悪を繰り返す、教育的支援が必要な小児期の事例 (ネフローゼ症候群) について必要な支援・援助を検討したものをロールプレイで実践する。
9	夏年発熱症 (症状) のある事例の検討と指導の実際	○			内藤成美	事前課題⑦ 夏年発熱症 (症状) のある事例の検討と指導について復習しておくこと
10						
11	回復期看護とは 1) 回復期の定義 2) 回復期の疾患とは 3) 回復期における対象の身体的・精神的・社会的特徴 4) 回復期における家族の関わり 5) 回復期における看護の基本	○			川口眞一郎	
12	回復期における成人期の事例 (慢性疾患) の発表会、まとめ	○				事前課題⑧ 回復期における成人期の事例 (慢性疾患) に必要な支援・援助を検討する。
13	回復期における老年期の事例 (慢性疾患) の発表会、まとめ	○			戸田真澄	事前課題⑨ 回復期における老年期の事例 (慢性疾患) に必要な支援・援助を検討する。
14	回復期における小児期の事例 (ネフローゼ) の発表会、まとめ	○				事前課題⑩ 回復期における小児期の事例 (慢性疾患) に必要な支援・援助を検討する。
15	回復期における精神疾患をもつ対象の事例 (看護学) の発表会、まとめ	○				事前課題⑪ 回復期における精神疾患をもつ対象の事例 (看護学) に必要な支援・援助を検討する。
備考	臨床(病院)での看護師の業務経験をふまえて、臨床に即した授業・演習を行います。					

領域横断

専門分野

授業科目	クリティカルケア看護	講師	氏名	①田中美穂子 ②岡野大楠	開講 年次	単位・時間	
			所属	①病院 ②専任教員	2年次 前期～後期	1単位 30時間	
			実務経歴	①救急看護認定 看護師 ②臨床看護師			
科目の おら	クリティカル看護とは、急激に生命を脅かす対象に対して行われる看護である。また、対象を早期に回復させるために多職種との連携が行われている。突然訪れる生命の危機状態のある対象を理解し、救命に必要な知識・技術を身につけ、社会復帰に向けて必要な看護師の役割・多職種連携を学ぶ。						
到達目標							
知識・ 技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>急性期から回復期看護の特徴を説明できる。</li> <li>急性期から回復期にかけてのあらゆる発達段階の対象の変化をイメージできる。</li> <li>急性期から回復期の治療とその環境の特殊性を説明できる。</li> <li>ICUで行われる治療と看護を理解し、全身の観察項目を説明できる。</li> <li>急性期の治療（気管内チューブを抜管した）を終えた対象の、（科学的）根拠を踏まえた観察項目が説明できる。</li> <li>急性期・回復期医療の看護師の役割と多職種の役割について説明できる。</li> </ol>						
思考・ 判断・ 表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>急性期疾患や病態、身体侵襲とその生体反応の特徴をふまえて看護実践を提案できる。</li> <li>急性期から回復期にかけての看護師の役割を考えることができる。</li> </ol>						
主体的学 習態度	1. 救急治療を必要とする対象の他患危機状況について意義の知識・文献検索を用いながらグループでディスカッションすることができる。						
科目評価	定期試験(筆記) 70% 課題(レポート含む) 30% 合計100%						
テキスト	系統別看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院) 系統別看護学講座 別巻 救急看護学(医学書院) ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得 (メディカ出版)						
参考文献							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	クリティカル看護とは 生命の危機的状態にある対象の特徴と看護 師の役割の理解 (危機的状態とは)	○			田 中 美 穂 子	各専門看護学 からだの構造 からだの機能 日常生活から見 たからだ 病理学総論 治療学総論 臨床薬理学	急性期の定義及びクリティ カルケアについて学ぶ。  救急医療の考え方について 学ぶ
2	救急医療体制 1) トリアージ・重症度の判断 2) 救急搬送の実践	○					事前課題①：救急における トリアージと重症度 救急を必要とする対象と家 族への情報収集とアッセ メントを学ぶ。  救急外来における対象の緊 急度と優先順位について学 ぶ。
3	生命兆候を示す身体反応をとらえる(臨 床推論) 1) VS・意識レベルより優先順位 2) 救急カート	○					救急対応のための準備につ いて学ぶ。  救急カートにそのような物 品・薬剤が入っているか学 ぶ。
4	BLS、ACLS	○					事前課題②：BLS・ACLSの基 礎知識 心肺蘇生法の基本的知識と 一次救命処置・二次救命処 置の実践を学ぶ。
5			○				院内急変時における初期対 応の流れについてシミュ レーションで学ぶ。
6	生命の危機状態にある対象への看護 (病院内におけるCPA・院内急変時の特 徴)	○					事前課題③： PICSについて学習し、今後 どのような看護を行いた いか、PICS予防を世間に啓蒙 するためにどうすればよ いか自己の考えをまとめる。  *科目関連 1年次講義に於けるシミュレーションについて詳細 なまでの説明を要する。
7	・病院内での応援体制		○				事前課題④ 心タンポナーデ、気道閉塞、フ レイブルチェスト、緊急性気胸、 脅威性奇心、大血管病についての 病態、症状、検査(画像含 む)、治療、看護をまとめる。
8	生命の危機を脱した対象への看護 集中治療後症候群(PICS)	○					事前課題⑤ 呼吸に關する解剖生理、呼吸(酸素 化)に關する機序、基盤をまとめ ておく。
9				○			
10	重症患者の全身管理 生体侵襲、ムアアの分類	○					
11	外傷初期看護	○					
12				○			
13	人工呼吸器	○					
14	集中治療を必要とする対象への看護(熱 傷・中毒・体温異常など)	○					
15	各発達段階の集中治療と看護 (実践発表)			○			
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえて、臨床に則した授業・演習を行います。						

領域横断科目

専門分野

授業科目	周術期の看護	講師	①渡邊 瞳 ②尾場 瀨雅裕	開講年次	単位・時間			
		所属	①専任教員 ②病院	2年次 前期	1単位 30時間			
		実務経験	①臨床看護師 ②手術看護認定看護師					
科目のねらい	周術期看護では、外科的治療を受けるあらゆる発達段階、健康段階の対象を多角的に看護実践する。そのため、外科的治療による侵襲をアセスメントし、その人の持つ回復力をいかに引き出せるかを考えることが重要である。術後の回復を促進するために予測と予防の観点を培い、基礎疾患が回復に及ぼす影響を理解し、その対象の特徴に応じた予測や予防を覚えるのではなく、深く考察できるようになる。							
到達目標								
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>術前、術後、回復期にかけてあらゆる発達段階の対象の状態の変化がイメージできる。</li> <li>外科的治療による身体侵襲や術後合併症が心身に及ぼす影響を説明でき、観察と基礎的な看護実践ができる。</li> <li>全身麻酔と腰椎麻酔の看護の違いを説明できる。</li> </ol>							
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>あらゆる対象の周術期における外科的侵襲と術後合併症を予測し、予防の看護を考えることができる。</li> <li>全身麻酔で手術を受けるあらゆる対象の術後の観察と看護実践をグループで検討し、発表ができる。</li> <li>術後の継続看護の必要性を発達段階別に比較しながら明確にできる。 (セルフケア技術の習得を促す援助、療養生活の場の調整、多職種連携は各専門分野で学ぶ)</li> </ol>							
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>あらゆる対象の周術期における看護を様々な文献を検索・活用しながらグループ間でディスカッションすることができる。</li> <li>グループ間で役割分担しながら演習に参加し発表することができる。</li> </ol>							
科目評価	定期試験(筆記) 80% 課題・レポート(態度も含む) 20% 合計100%							
テキスト	系統別看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院) ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 (メディカ出版)							
参考文献	周手術期看護 安全・安楽な看護の実践(インターメディカ)							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	外科的侵襲と術後合併症予防と発症時の看護	○			尾場 瀨雅裕	各専門看護学から からだの構造から からだの機能から 日常生活から見る からだ 病理学総論 治療学総論 臨床薬理学	事前課題① 全身麻酔の術後合併症の発生機序・麻酔・挿管・人工呼吸器・身体侵襲・看護についてレポート	
2	(呼吸・循環器・消化器合併症、感染(傷・検査値))	○					シミュレーション 事後課題② 高齢者、小児、精神疾患をもつ対象の術後1日目観察と看護をグループで検討し、講義12~14回目で実践発表できるように準備、練習を行う。	
3		○						
4	術前看護(予測と予防看護)	○						
5		○						
6	術中の情報のポイント(出血量・時間・VS・尿量・体位をアセスメント)	○			渡邊 瞳		事前課題② 腰椎麻酔で手術を受ける対象の看護のレポート	
7		○						
8	全身麻酔で手術を受ける対象の術後1日目の観察と看護実践(成人)	○	○					
9		○	○					
10	腰椎麻酔で手術を受ける対象の看護	○						
11	腰椎麻酔で帝王切開手術を受ける対象の看護	○	○					
12	高齢者の術後観察と看護(実践発表)		○					
13	小児とその家族の術後観察と看護(実践発表)		○					
14	精神疾患をもつ対象の術後観察と看護(実践発表)		○				課題③ 周手術期の看護師の役割のレポート	
15	周術期の看護師の役割		○					
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。							

領域横断科目

専門分野

授業科目	対象に合わせたフィジカルアセスメント	講師		開講年次	単位・時間	
		氏名	①高原麻衣 ②内藤直美 ③田中千尋			
		所属	①②③ 専任教員			
		実務経験	①②③ 臨床看護師	2年次 後期	1単位 30時間	
目的の ねらい	基礎看護学で修得したフィジカルイグザミネーションを基盤に、あらゆる発達段階に応じたフィジカルイグザミネーションを実施し身体の状態を査定する能力を養う。また、身体的症状から得られた情報より対象の状態を身体的、心理的、社会的側面からヘルシアセスメントができ臨床判断能力に求められる「気づき」「解決」できる能力を身につけさせる、その能力をシミュレーション実践につなげさせる。					
到達目標						
知識・技 術	1. あらゆる発達段階に応じたフィジカルイグザミネーションを正確に実施できる。 2. 対象の状態判断のために必要な情報をフィジカルイグザミネーションを応用し、収集することができる。					
思考・表 現	1. 各発達段階における対象の正常・異常が判断できる。 2. 対象の基準値から逸脱していた場合、その原因を検討し、アセスメントできる。 3. 対象の状態を踏まえ優先順位を考えた情報収集ができる。 4. 対象から得られた情報についてアセスメントし、根拠を根拠いた報告することができる。 5. 対象から得られた情報をSOAPで伝達し、情報の優先順位、観察項目を明確に記述できる。					
主体的学 習態度	1. フィジカルイグザミネーションの役割が主体的にできる。 2. グループワーク時にグループで役割分担を示すことができる。 3. 他者の意見を受け入れ、認めることができる。 4. 講義で学習した内容、テキスト、また他の文献を活用して自己学習をすることができる。					
評価 方法	定期試験（英法）100%					
テキスト	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学Ⅱ ヘルシアセスメント ナーシング・グラフィカすべてのテキスト（メ ディカ出版）					
参考文献	ナースビギンズ 急患対応力10倍アップ 臨床実践フィジカルアセスメント（南正堂）					
回数	教育内容	教育方法		講師	関連科目	留意事項
		講義	演習 その他			
1	1. 呼吸困難時のフィジカルアセスメント 1) 呼吸困難感を訴える成人期の患者の フィジカルイグザミネーションの実践		○	高 原 麻 衣	からだの構造 からだの機能 病理学総論 専門看護学	<事前学習> 1. 呼吸器の構造と機能 2. 呼吸器とは何か 3. 呼吸器のメカニズム と分類 4. 呼吸器に伴って生じ る症状 5. 呼吸器の観察項目と 観察方法 <事後学習> 経過記録の記載
2	2) 呼吸困難を訴える成人期の患者の アセスメント	○				
3	2) 呼吸困難を訴える高齢者のフィジ カルイグザミネーションの実践		○			
4	3) 呼吸困難を訴える高齢者のアセス メント	○				
5	4) 呼吸困難を訴える思春期フィジカル イグザミネーションの実践とアセスメン ト	○	○			
6	2. 疼痛を訴える高齢者のフィジカルイ グザミネーションの実践とアセスメント		○	田 中 千 尋	<事前学習> 1. 疼痛とは何か 2. 疼痛のメカニズムと分 類 3. 疼痛に伴って生じる症 状 4. 疼痛の観察項目と観察 方法 <事後学習> 経過記録の記載	
7	3. 意識障害時のフィジカルアセスマ ント 1) 意識障害をきたした成人期のフィ ジカルイグザミネーションの実践		○			
8	2) 意識障害をきたした成人期のアセ スメント	○				
9	3) 意識障害をきたした精神障害者の フィジカルイグザミネーションの実践		○			
10	4) 意識障害をきたした精神障害者のア セスメント	○				
11	4. 寝起・褥瘡のフィジカルアセスマ ント	○	○	内 藤 直 美	<事前学習> 1. 寝起とは 2. 寝起のメカニズム 3. 寝起に伴って生じる症状 4. 寝起の観察項目と観察 方法 <事後学習> 経過記録の記載	
12	3) 寝起を訴える妊婦のフィジカルイ グザミネーションの実践		○			
13	4) 寝起を訴える妊婦のアセスメン ト	○				
14	5. 授乳時のフィジカルアセスマ ント 1) 授乳する乳児のフィジカルイグザ ミネーションの実践		○			
15	2) 授乳する乳児のアセスメント	○				
備考	臨床（病院）での看護師の実務経験をあま、臨床に則した授業・演習を行います。					

領域横断科目

専門分野

授業科目	シミュレーション実践	氏名	講師			開講年次	単位・時間
			①桑原麻衣 ②内藤直美 ③田中千尋				
			所属	①②③専任教員			
実務経験	①②③臨床看護師						
科目のねらい	臨床現場を再現した状況の中で対象の症状の変化に合わせたヘルスアセスメントを行い、シチュエーション・ペー スト・トレーニングを通して臨床判断能力を身につけるための基礎的な看護実践能力を養う。						
到達目標							
知識・技 術	1. 対象の症状に合わせた安全・安楽な看護実践ができる。						
思考・ 判断・表 現	1. 症状アセスメントの結果から、必要な看護を考えることができる。 2. 「気づく」「解釈する」「反応する」「省察する」を繰り返し、新たな自己の学習課題を確認することができ る。						
主体的学 習態度	1. 能動的な学習を行うことにより学習者が答えを見つけることができる。 2. シミュレーションでの「思考・感情・行動・態度」などから自己を振り返ることができる。 3. 対象の状況を予測、推論するために必要な学習を行うことができる。						
科目評価	定期試験(実技)100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ すべて (メディカ出版)						
参考文献							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	複数患者の観察と確認 (成人期)		○		田中千尋		事前に事例患者の情報を提示する。必要な学習しておくこと。
2	複数患者の夜間の観察 (成人期)		○				
3	複数患者の検温 (成人期)		○				
4	吐血時の看護実践 (成人期)		○				
5			○				
6	発熱時の対応 (老年期)		○		桑原麻衣	からだの構造 からだの機能 全ての病を見る 病理学総論 臨床薬理学 看護過程 療養生活援助技術 I・II 診療補助援助技術 I・II	高齢者が発熱する原因とその看護、高齢者の特徴をふまえた発熱時の看護について学習しておくこと。
7	発熱時の対応 (小児)		○		内藤直美	小児が発熱する原因とその看護、小児の特徴をふまえた発熱時の看護について学習しておくこと。	
8			○				
9	転倒時の対応 (老年期)		○		麻桑原	I・II フィジカルアセス メント 各専門看護学	高齢者が転倒しやすい原因と転倒時の対応について学習しておくこと。
10			○				
11	異常妊娠時の看護実践		○		内藤直美		妊娠時の疾患とその看護について学習しておくこと。
12			○				
13	産褥1日目の褥婦と生後1日目の新生児の看護実践		○				産褥の経過と新生児の看護に必要な観察について学習しておくこと。
14	アディクション (嗜癖) に対する援助		○				アディクション (嗜癖) にとその看護について学習 しておくこと。
15			○				
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ、臨床に則した授業・演習を行います。						

精神看護学

専門分野

授業科目	対象理解とこころの看護実習	講師	氏名	戸田真理	開講 年次	2年次 後期	単位・時間	2単位 60時間
			所属	専任教員				
			実務経験	臨床看護師				
実習目的	精神医療における看護の役割・機能及び精神を障害された対象やその家族の理解を深め、精神の健康回復への援助過程を通して、自己・他者理解を深める能力を養う。							
到達目標								
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の病態及び治療目標を理解し、必要な看護目標を立案できる。</li> <li>2. 対象の病的側面だけでなく、健康的側面についての情報を意図的に収集しアセスメントできる。</li> <li>3. 対象の精神症状が日常生活に及ぼし影響を理解し、アセスメントできる。</li> <li>4. 対象の特徴や病態、症状、治療、日常生活自立度、社会資源の活用、家族背景等の全体像について関連図に記載できる。</li> <li>5. アセスメントの結果をふまえ、看護の方向性に沿った援助が実践できる。</li> <li>6. 対象のセルフケアレベルを考慮した援助が実践できる。</li> <li>7. 再構成の場面や動機を明確にし、自己の感情について記載できる。</li> <li>8. 対象との関わりの場面から自己を振り返り、対人関係の傾向を捉えることができる。</li> <li>9. 対象のパーソナルスペースを確保しながら受容的、共感的態度で関わる事ができる。</li> <li>10. 対象の症状や行動に応じたコミュニケーションの工夫を行い関わる事ができる。</li> </ol>							
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健福祉法に定められた対象の治療環境（行動制限・入院形態）を見学し、精神科病院における看護師の役割を考え、記載、述べる事ができる。</li> <li>2. 対象の安全な療養環境の確保（リスクマネジメント）と人権擁護について看護師の視点で考える記述もしくは述べる事ができる。</li> <li>3. 対象が地域で暮らすために必要な支援（通院、訪問看護、地域連携、多職種連携、福祉サービス）とは何かを主体的に提案し、意見交換できる。</li> <li>4. 対象の生活維持に必要なセルフコントロールについての課題を考察し、記述もしくは述べる事ができる。</li> </ol>							
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間、時間中は臨床看護師、臨床指導者、教員へ、質問、相談、情報伝達が主体的にできる。</li> <li>2. 受け持ち患者にあわせて、積極的にコミュニケーションをとり、看護師として信頼関係を構築できる。</li> <li>3. グループ間で共同、協調的行動、言動ができる。</li> <li>4. 社会人としてのマナーを守り、倫理を考えた行動、言動が実践できる。</li> </ol>							
実習期間及び実習時間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間：10日間 学内実習：4日目</li> <li>2. 実習時間：原則として8：30～14：30</li> </ol>							
実習内容及び実習方法	<p>（実習内容）対象者1名を自己決定し、関わりの実践場面を考察する。 （ロイ理論を使って、アセスメント、看護目標の立案、実施、評価） 対象との人間関係の場面ではペプロウの理論を活用してアセスメントする） （実習方法）ロイのアセスメントを行うことで、対象理解を深める。 *詳細については精神看護学実習要領および実習オリエンテーション時の配布資料を参照してください。</p>							
実習施設	医療法人 恵愛会 福岡病院							
評価方法及び評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「評価規程」および「実習に関する規程」、「追実習および再実習に関する規程」に基づいて行う。</li> <li>2. 対象理解とこころの実習状況及び試験結果を基に、評価表により100%評価とする。</li> </ol>							
テキスト	ナーシンググラフィカ 「情緒発達と精神看護の基本」・「精神障害と看護の実践」							
参考文献	参考図書：医学書院 精神看護の基礎 精神看護の展開 MSE I・II 精神保健福祉							
留意事項	精神看護学実習では対象者の身体的精神的社会的看護を実践する。							
備考	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行います。							

看護の統合と実践

専門分野

授業科目	統合実習	講師	氏名	岡野大輔	開講年次	3年次後期	単位・時間	2単位 90時間
			所属	専任教員				
			実務経験	臨床看護師				
実習目的	医療チームの一員としてあらゆる健康レベルにある対象を全人的に捉え、適切な看護を提供するために既習の知識・技術を統合し看護実践できる能力を養う。							
到達目標								
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の対象の病態生理、優先順位を考えた看護を実践できる。</li> <li>2. 対象に合わせた時間管理、行動計画が立案できる。</li> <li>3. 対象の治療、検査を理解し、適切な看護を実践できる。</li> <li>4. 夜勤時の看護師の役割、機能を理解し、述べることができる。</li> <li>5. 各勤務帯を通して看護の継続に必要なシステムの実践を理解し、看護師の状況に応じた臨床判断について説明できる。</li> <li>6. 病院の組織の中での看護部組織と役割について説明できる。</li> <li>7. 看護管理者で行っている役割とマネジメントについて説明できる。</li> </ol>							
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チーム医療のもとに行われる治療・処置を受ける患者の状況を知り、看護チームにおける自らの行動を工夫できる。</li> <li>2. 様々な場面に応じて判断し、看護実践ができる。</li> <li>3. 臨床推論を使って、報告、相談ができる。</li> <li>4. 病院組織の中の看護師の役割、多職種連携のあり方とその課題について考察できる。</li> </ol>							
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療チームの一員として、適宜、連絡、報告、相談が実践できる。</li> <li>2. グループで協力し、リーダーシップ、メンバーシップの役割を遂行できる。</li> <li>3. 自己の看護観について探求することができる。</li> </ol>							
実習期間及び実習時間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間：臨地実習 13日(90時間)</li> <li>2. 実習時間：              8:30～11:30 (管理実習 4時間×3日 12時間)              8:30～15:30 (病棟実習 8時間×5日 40時間)              8:30～17:00 (病棟実習 10時間×1日 10時間)              10:00～14:45及び              15:30～19:15 (遅出実習 5時間×2日 10時間)              16:15～8:45 (夜勤実習 9時間×2日間にわたる 18時間)           </li> </ol>							
実習内容及び実習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病棟実習 (実習内容)           <ol style="list-style-type: none"> <li>①複数の対象を受け持ち、夜勤実習を1回のみ行う。</li> <li>②時間管理、業務管理、人材管理に関する場面を見学し、管理の方法を学ぶ。</li> </ol>           (実習方法)           <ol style="list-style-type: none"> <li>①複数の対象を受け持ちチームの一員として看護実践を行う。</li> <li>②チームリーダー看護師と行動を共にし、様々な管理の実際を見学する</li> </ol>           *詳細については統合実習オリエンテーション時の配布資料を参照してください。         </li> </ol>							
評価方法および評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「評価規程」および「実習に関する規程」、「追実習および再実習に関する規程」に基づいて行う。</li> <li>2. 原則、出席すべき時間の100%の出席をもって評価の対象とする。</li> <li>3. 実習状況を基に、評価表により評価する。              病棟実習 (看護管理を含む) 100%           </li> </ol>							
実習施設	社会医療法人水光会 宗像水光会総合病院 (13日間)							
テキスト参考文献	看護マネジメント、医療安全で使用した教科書、参考書、配布資料、その他必要な文献							
留意事項	既習の知識と技術を統合する実習です。事前に看護師としての心構えを充分に行い実習に臨みましょう。							
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行います。							